當百の児童問題

252.5
162

252.5-162
1200501343175

始

當面の兒童問題

先進社發行

納本

當面の兒童問題

先進社

252.5-162

当面の一

目次

學業成績の優劣をきめる諸事情……東京帝國大學助教授 青木誠四郎…(三)
幼兒の心理と其取扱方……東京女高師教授 倉橋惣三…(四一)
子供の惡癖について……醫學博士 杉田直樹…(六七)
日本兒童の素質……文學博士 松本亦太郎…(一〇一)

學業成績の優劣をきめる諸事情

東京帝國大學
助教授　青木誠四郎

目次

一　まへおき
二　先天的（うまれねまへ）の事情
三　後天的（うまれたのち）の事情
　1. 育ちと躾け
　2. 子供の態度
　3. からだの狀態
四　むすび

一　まへおき

子供もずつと幼い時代には、何と云つても、からだの事が何より氣にかゝること
は、誰でも同じでせう。少し風邪をひいた樣だとか、少し便がおかしい樣だとか、
たえず心配しない時とてもないのであります。併し一旦學校へ子供を出して見ま
すと、この樣なからだの事が氣になると同時に、自分の子供が學校で敎つてゐる
ことがわかるかどうかとか、出來がどうであらうとか、ひよつとすると非常に出
來が惡いのではないか、いやまあ普通位にはどうかかうかいつてゐるだらうとか
云ふ樣に、いはゞ子供の學習の狀態について、さま〴〵の心配をするのが親心と
も申すべきやうな有樣であります。

かう云ふ心持のなかへ、子供が通信簿かなにかをもらつて來て、その成績がわか
ると、それをとりまいて、親も子供もあるひは喜び、あるひは心配すると云ふ風

であります。甲ばかりがそろつてでもゐれば、家中が笑顔をして、何となく前途が明い樣な氣持にさそはれるのですが、丙や丁が見えたり、思はしくない成績を見ると、親は顏色をかへて、それからそれへと子供の將來のことなどを考へこんで、滅入つてしまつて、時には無邪氣な子供に罵聲の一つもあびせると云ふ樣になり勝であります。

併し、私達がこの樣な子供の成績について或は喜び、或は憂へる前に、或は心配する前に、子供の成績については、も少し深く見入つて、考へて見る必要があります。

時には、それが子供の學校の成績をよくすることを私達に敎へてくれるかもしれません。が、また時には、それがたとへ學校の成績はわるくて、どうにも仕方なくとも、その將來の生活に明いものを示してくれるかもしれないのであります。……ほんとうに學校の成績と云ふ樣なものは、その人間の一部分の現れで、決して全體のねうちを見せてゐるものではないからであります。

かう云ふことから、私は、私がこれまで三四年の間諸所の小學校の生徒や、中學校の生徒についてしらべた材料をもとにして、子供の學校の成績は、いつたいどんな事情から定つて來るものであるかをお話して、それから見て私達が子供の成績について、常平生どう云ふ風に考へてゐなくてはならないか、と云ふことを考へて見たいと思ふのであります。

二　先天的の事情

まづ子供の成績は何と云つても、その生れつきの頭の質(たち)如何によつて決つて來る點が多いのであります。卽ち、頭の質(たち)がよければ、まづ大體學校の成績もすぐれることが多い。これと反對に頭の質が惡ければ、また大體學校の成績も勝れないことが多いわけであります。

この様なことは、今日までに、だん〳〵研究されて來た智能檢査（卽ちメンタルテスト）の結果と學校の成績とをつきあはせて見るとわかります。智能檢査と云ふのは、まだいろ〳〵な缺點はありますが、まづ大體この生れつきの頭の質を知らせてくれます。ですから、そのしらべの結果を學業成績と比べて見ると、この生れつきと成績とが、どんな風の關係にあるかゞ解るわけであります。さうやつてしらべて見ますと、大體は一致してゐるやうであります。すなはち、智能檢査の結果の非常によい子供は學校の成績もまた勝れてゐます。學校の成績の非常にわるいものは、かう云ふ檢査の結果も思はしくないのが多いやうです。……勿論さうでないものも却々多いのではありますが。

では、この生れつき頭がよいとか、惡いとか云ふ、それはどう云ふ事情で決つて來るのでせうか、かう云ふ事については、ずゐぶん長い間學者がさま〳〵な方面から研究して見ました。ある學者は天才の生れることについて非常に澤山の例によつて、調べて見ました。またある學者は低能な人達の澤山な家系について研究して見ました。さう云ふ結果によりますと、この生れつきの頭の質は、大體親の頭の質を受けつぐものだと云ふことが解つて來たのであります。ですから子供の頭のよしあしは、大部分は親自らの頭のよしあしによつて決つて來ると云つてよいのであります。

かやうに、子供の學校の成績は子供の頭の質によつて定り、子供の頭の質は親の頭の質によつて決つて來るわけでありますから、子供の學校の成績は、どうしても親の學校の成績と似て來る譯であります。次頁にかゝげた表（村瀨氏）は、この關係を實際について調べたものであります。

これを見ると、今申した様な關係がよほどよく示されてゐます。もちろん親と寸分違はぬ様な成績にはなつてゐません。（大體はよい人の子は少しづゝわるく、わるい人の子は少しづゝよく、中位に近くなる様な傾きがあるのです。）併し、や

		親の成績								計
		3	4	5	6	7	8	9	10	
子の成績	3				1		1			2
	4					5	2	1		8
	5			1	2	6	5	2	1	7
	6		1	1	16	8	22	4	6	58
	7			1	17	26	33	18	5	100
	8			1	10	21	34	16	4	86
	9			2	8	11	29	26	1	77
	10			2	1	4	19	12	3	44
計			1	8	55	81	145	79	20	

はり親が九點の成績の人には九點の成績の子供が多い、親が八點ならば子供も七、八、九位が最も多い。しかも親が六點と云ふ樣な場合には子供も五、六、七位のあたりがいちばん多いと云ふことは見られるのであります。

こんな點を考へますと、子供の成績をよくするには、まづ親の頭から變へてかゝらねばなりません。だから結婚から改めてかゝることが必要なのであります。できるだけ頭のよい夫を撰び、妻を撰ぶと云ふことが上々の策なのであります。併し、われ〳〵の

樣にもう結婚してしまつて、子供のあるものはそんなことを云つてもはじまりません。そこで後にお話しする樣なたとへ生れつきはどうでも、その生れつきを生かす方法を考へるやうにすると一緒に、一方では、おのれに歸つて考へて見て子供の成績を子供ばかりの責にする樣なことを避けなければならぬと思ひます。自分の頭があまりよくもないのに、子供ばかり頭をよくさせると云ふことは無理と云ふものです。愚痴の一つも云ふ暇に子供のために光のある道を考へてやりたいと思ひます。

子供の頭は大體親の頭のよしあしで決まることは今お話した通りでありますが、たとへ親の頭はよくても、子供の頭の質が惡くなつて生れて來る場合があります。その第一のものは、親の身體にある病氣の祟りです。親が結核にかゝつてゐたり、黴毒をもつてゐたり、また、あまりな大酒のみのためにアルコール中毒を起してゐたりすると、そのために子供のでき方がうまくゆかないことが多いので

す。いはゞ、「いもち病」にかゝつた稻の實が充分な結實をしないで「シヒナ」が多くなる樣なものです。さうすると、子供の頭の發達がひどく遲れてしまつて、學校へでる樣になつても人並の頭になれないと云ふ事が少くないのであります。從つて學校の成績も思はしくなくなる譯なのです。(尤もアルコール中毒には異論があつて、アルコール中毒それ自身は子供を害しないと云つてゐる人が少くありません。併しアルコール中毒のものゝ子供に低能などの多いのは事實でありますから、つまりアルコール中毒そのものは子供を害はないが、アルコール中毒になる程酒を呑む人には頭のわるい人が多くて、そのために子供まで頭がわるいのだと考へられるのです。どちらにしても、よいことではありません。)

それから、これは少しもう生れつきと云ふ範圍を越して來ますが、子供がお腹の中にあるときに、親が結核にかゝつたり、黴毒にかゝつたり、あるひはアルコール中毒になつたり(女の人がこんなに酒を呑むと云ふことは、めつたにありませんが)また時に非常な精神感動—殊に不愉快な—をしたり、ころんだり、おつこちたりすると、子供の育ちが惡くなつて、そのために子供の頭が惡くなると云ふことがあります。難產などもさう云ふ結果になる事が少くありません。

こんな譯ですから、自分の頭がよくても、自分の身體に、ほんとうの健康がなかつたり、妊娠中の攝養が足らなかつたりすると、子供の頭はわるくなることが少くないのであつて、さう云ふ意味から、私達は子供について考へるとき、前に申した樣におのれの頭に歸つて見てゆくと共に、おのれの、からだについて省み、更にその子供のこの世に出ぬ前の事まで思ひ及んで見る必要があるのでありまして、同時に子供の學業成績を勝れたものにと希ふならば、親自身の攝養が大切になつて來るわけであります。

どこまでも、わが子はわが子で、私達を離れてできて來たものではありませんから、まづ子供のことは自分のことに氣をつけて見てゆく樣に心がけたいもので

あります。

三　後天的の事情

生れつき頭の質が悪いと解つて、それで學業成績が面白くないのだときまると、私達は、その成績を非常にすぐれたものにしようとすることはできません。やつても無駄でせう。しかし、さうかと云つて、まるで捨てゝしまつては、子供の伸ぶべきものが伸びません。やはりそれ相當には伸ばす工夫をしなくてはなりますまい。

と云ふのは、實際に子供を調べて見ますと、生れつきこれは頭の質は非常によいとか、または相當によいとか判斷されるもので、しかも學校の成績が非常に悪いものがあるのに、一方には、頭のはたらきはそれ程でなくても學校の成績は相當によいと云ふものがあるからです。しかもこれは、幼い時からの家庭や學校でのいろ〳〵な注意、不注意から生れて來るのですから、どうしても、よく考へて子供を育てなくてはならぬ譯なのです。そして、さう云ふ風によく注意して育つて見て後に、そのできふできで、將來の生活を考へることが、ほんとうに子供の爲に親のなすべきことなのだと思ふのであります。

そこでかう云ふ幼いときからのいろ〳〵な事情について、私の調べました結果から、多少とも子供をどう導いてよいかと考へられることをお話して見たいと思ふのでありますが、大體これを三つに分けて考へてゆきたいと思ひます。第一は、その幼い時からの育て方、躾け方であります。第二は、これと種々關係しますが子供の學校の仕事に對する氣持、即ち態度であります。第三は、子供のからだの狀態がそれであります。

1.　育ちと躾け

子供をどう育て、どう躾けるかと云ふ事は、なか〳〵複雜した問題でありまして、到底これを一口には申しきれません。時と場合とにより、また子供の性質によつて、それ〴〵違つてゐるわけでもありますし、その子供の心の働きのいろ〳〵な方面について、これはかう、あれはあゝと考へ決めてゆかなくてはならぬものであります。併し、こゝに學業と云ふ一つのことに關係してどう子供を躾けてゆくと、どうなるかと云ふことは、大體かうと云ふことができる樣であります。

これは次にお話することでありますが、大體子供は學業について、よく考へ、おちついて學ぶと云ふことが必要なのであります。ところが、この樣な性質は勿論生れつきもありますが、幼い時からの育ち方から生れて來るものなのであります。しかも育ちとは云つても、親がかうしよう、あゝしようと心で決めて子供を育てるところからきまつて來る方面もありますが、多くはさう云ふのでなく、私達が何も考へてゐないうちに、自然にその性質が異つて來るやうです。と云ふのは、子供はまづ他人の眞似をすることが著しいものです。言葉をまねる、動作をまねることは誰でも御承知の通りでありますが それと同じに、他人の氣持をまねるのであります。周圍にゐる人の怒りは子供の心に怒りを、周圍のものゝ悲しみは悲しみを、そわ〳〵した落つかぬ心は、その落ちつかぬ心を子供の心に喚び起すのです。だものですから周圍にゐるものが、いつもいつも落ちつかぬ樣な、眞面目でない樣な氣持でゐると、それが子供の心に移つていつて、たうとう、さう云ふ氣持を子供の心の中に植ゑつけてしまふ樣になるのです。子供の心持が親に似ると云ひますが、それはかうして似て來るものなのであります。西洋のある學者が、人の性質は二歳位より前に定まるものだと云つたのは、かう云ふ風にして植ゑつけられる性質は非常に幼年の時に著しいからでありませう。何にしましても、子供の性格がかやうにして周圍のものから養はれて來るものでありますから、周圍のもの

が、いつも落ちついてよく物を考へず、つねにそわ〳〵してゐれば子供もさうなり、學業をなちふに大切な性質が養はれずに濟むわけであります。從つて學校の成績が、かう云ふ方面からいく分殺がれる形になつて來ます。併しこれと反對に周圍にゐるものゝ心持から子供に落ちついた傾きが養はれて來れば、それにつれて學業成績もよくなる樣に力づけられると云つてよいのであります。

勿論この樣なことからだけ學業成績がきまつて來る譯ではありませんから、この點ばかりから來る著しい例はありませんが、非常に忙しい家庭に育つた子供が概して思はしくない成績を示すのなどは、そのためでありませう。

落ちついて、考へてと云ふ樣な學業に對して好ましい態度は、まだ、今申した樣な知らぬ間に出來て來る傾きばかりから來るものではありません。そこには、また私たちが心にもつ躾けの仕方から來るものも大切であります。子供にはまだ善惡と云ふ樣な區別はごく幼い頃はできあがつて居りません。そこでさう云ふことは周圍にゐる成人の批評からきまつて來るものと見られます。成人が、「あゝよいことをしましたね」と云ふ樣な賞讃の言葉をあびせれば、子供はそれを喜び（ほめられて喜ぶと云ふのは人の自然の性情ですから）同時に「これがよいことだな」と云ふ觀念ができてまゐります。ところが叱られると、いやな氣持がすると共に「これがわるいのか」と云ふ心持がだん〳〵でき上つて來るのです。ですから育てる親が正しくない事と惡い事との區別をわきまへて子供に一つの癖をつけようとすれば、どうしても、この方面から力を注いでゆかなくてはならぬのであります。勉强するくせと云ふ樣なものでもさうで、周圍のものゝ注意、批評、で作つてゆかなければ、できない點が少くないのであります。私が非常にできない子供（中學校の一年生）と、頭に相當してよくできる子供とを三百人ほどの子供の中から各三四十人をえらんで、その子供の幼い時の躾けの嚴重か、どうかをしらべたものを見ますと

	秀れた子供 實數	百分比	劣等の子供 實數	百分比
嚴格のもの	一一	三三・四	一九三	三一・七
放任されたもの	五	一五・六	一三	三一・七
中位のもの	一四	四三・七	一三	三一・七
わからぬもの	二	六・三	二	四・九

と云ふ風で、目につくことは秀れた子供の中には放任されて少しも勉強のことで世話をやかれなかつたものが非常に少いのに、劣等な成績の子供にはそれがなかなか多いと云ふことであります。しかも幼時から現在への變化を見ますと、

	秀れた子供 實數	百分比	劣等の子供 實數	百分比
一層嚴重になつたもの	四	一三・三	一七	四三・六
一層寛やかになつたもの	一一	三六・七	六	一五・四
同一のもの	一五	五〇・	一六	四一・〇

と云ふ風で、劣等のものには嚴重になつたものが非常に多い。しかもその効果は實際にはあがつてゐないのであります。

かう云ふ譯でありますから、子供の躾けと云ふ點から考へますと、幼いときに勉强する樣なくせをつけることが、成績をよくさせることのもとゝ云ふ事ができると思ひます。幼い時に放つておいて、よい癖をつけず成長させ、おほきくなつてからガミ〳〵世話をやいても、とうてい効をあげることはできないと思ひます。しかも幼い時に、よい癖をつけてさへおけば、おほきくなるにつれて放任してよいのでありますから、子供の將來の事を考へると、決して、たゞそのなすまゝにまかせて、好ましくない樣な生活をも、だまつて見てゐると云ふ事が、よい譯ではありません。やはりよい事はよいとし、惡いことはどこまでも惡いとし、立派な人間へ、立派な人間へと子供を近づけようと力をつくすべきだらうと思ひます。

これは勿論この關係ばかりからではありませんが、どうも兄弟姉妹のない子供は、できの思はしくないものが少くありません。これなども、あまり子供を大切に

し、その云ふまゝがとげられ、從つて努力する習慣がつかないと云ふことも一つの原因ではないかと思ふのであります。どうも惣領の子供は、その割合から云つてできの惡い子供が多いし、末子もまたその割合が多いのです。その極端な場合が一人子でありますが、一人子などには、それが著しいやうに考へられます。ある年私がしらべたものによりますと、よくできる子供の中には一人子が九パーセント位しかないのに、出來の惡い子供の中にはその二十二パーセント、卽ち五分の一以上も一人子がありました。その後二三年調べてゐますが、その結果が、やはり同じやうであります。この樣なことは、一つには兄弟のない子供はお互が、みがき合ふと云ふことがない。競爭すると云ふことがない、と云ふことからも來るのでありませうが、一つには惣領の子供や、末の子、まして一人子と云ふ樣な子供は、いつも我儘に、また思ふまゝに放つておくと云ふことが多いためではないかと考へられるのであります。これなども人の親として考へてゐなくてはならぬ事ではないかと思ふのであります。

これまでお話しましたことは、子供の育て方、躾け方が學校の成績をきめる一つの事情になつてゐると云ふことであります。私達は無理な躾け方をしてはなりませんが、できるだけ勉强のできる樣な習慣をつける樣に子供を育て躾けることを考へたいものだと思ひます。たゞ放つておいてよいと云ふことはないのであります。

2. 子供の態度

前に、よく落ちついて考へる樣でないと、學校へいつて學ぶことの成績はあがらぬと申し、それを養ふために育て、躾けを、どうすべきかを御話したのでありますが、今度はさう云ふ子供の學業に對つたときの心持が、どう成績に關係して來るかを考へて見たいと思ひます。

で、子供が、落ちついてよく考へて學業に、いそしむと云ふ事は大切なことであつて、これがないと成績もあがらないのでありますが、も一つ大切なことは、自分から進んでやらうとしてやる勉强でなくては、成績があがりません。その上また自信をもつて、これに向つてゆくと云ふことが大切であります。

かう云ふ態度の根本になるのはやはり子供の興味だと思ひます。ある人が「興味は頭を開く親鍵だ」と云つて、興味をつかまへることが、すべての頭の働きを進める第一のものだとしてゐますが、子供の學習について考へますと、ほんとうに、この興味と云ふことは大切な問題なのであります。實際誰とて興味のないことを一生懸命に自ら進んでやらうと云ふ氣になりませうか。

今日の學校はやむを得ない事情のために、五十人、六十人、多いクラスになりますと七十人、八十人をいれてゐる組もあります。ですから、いはゞ十把一からげで、おほざつぱな教育をし易いのであります。從つて子供の一人一人についてよく觀察して、その興味をつかまへ、その心持をひきたて乍ら教育すると云ふことは、非常にむづかしいと云はなくてはなりません。出來のよい子供は、こんな狀態にあつても學校で學ぶことが解るものですから、從つて興味をもつこともできますが、頭の少しよくない子供になつて來ると、さう云ふことが困難ですから、ますます學校はきらひになり、學校の成績はだん〳〵不振になつて來るのであります。

興味が學校の成績に關係することの多いことは、私の調べた結果の中にも、はつきり知ることができました。これは中學校の生徒でありますが、生徒に自分の好きな學科、(卽ち面白くて自分でやらうとする樣な學科にあたるわけです。)一生懸命勉强する學科（一番時間を割いて勉强する學科にあたります。)それから大切だと思ふ學科と三つの立場から學科に順序をつけさせまして、これと成績との關係を調べて見ますと、成績と密接な關係のあるのは、學科のすききらひであります。時間を割いて勉强する學科が、よく出來ると云ふことにもなりませんし、大切と思

ふ學科の成績がよいと云ふわけでもありません。すきな學科こそできるのです。勿論できるからすきなのでもありますが、また好きだから、出來る譯でもあるのです。この事は、學校の成績に對して、興味と云ふ事が非常な關係をもつてゐる事をよく物語つてゐると云ふべきでありませう。

かやうに學校の成績は、子供の興味と關係することの著しいものでありますから、私達は子供が、どうすれば學科に興味をもつようになるか、どう云ふ事に興味をもつものであるかと云ふ樣な事に注意してゆかなくてはならぬのであります。それを、どうするかと云ふ事になりますと、子供の生活全體のことをお話しなくてはならぬことになりますが、一口に云ひますと、はじめの中によく理解したかせぬかを確かめて、確かな知識を養つておくこと、子供一人一人の興味は、ちがひますから、それを見つけ、それに結びつけて學校の仕事をさせることなどは、格別にも注意したいことゝ思はれるのであります。

次に大切なことは、學業に對する自信をもつか否かと云ふ事であります。今申した、はじめの中に確かな知識を作つてやると云ふことは、一つには、興味を起させる方法とも云へますが、一つには、それによつて學業に對する自信を養つてやると云ふ事にもなります。と云ふのは、子供は最初に敎はることが、わかりかねると一方には興味がなくなりますが、一方には、その上に敎へられる事が、また解らないので、わからぬ、わからぬで全くわからなくなり、さうなると學校で敎へてくれることに對して自信をもつて向ふことができなくなります。つまり、おど〳〵した樣な氣持になるのです。

これに類した事は、まだ外にも澤山あります。試驗などに、しくじると、その學科に對する自信がなくなつて、その學科の試驗の時と云ふと、おどおどした氣持になる。時にまたその學科の擔任の先生などに、ひどくいためつけられると、その學科と云ふと氣持が平生の樣でなくなる。かう云ふ樣なことになると、學科の成績は、

そこでガタンと落ちてしまふ樣になります。これを私共は意志禁止とか、意志抑壓とか云つてゐます。つまり、ある事柄に對して自信がなくなると、これまで出來たもの、また相當に出來なくてはならぬ場合に心の働きが抑へつけられてとまつてしまふことを云ふのであります。よく高等學校や中學校の試驗を一度しくじると何度うけても、うまくゆかなくなつたり、頭の發達のおくれた子供が學校に入つてその頭に似てもつかぬ樣な學業を課せられると、そのために頭が相當に發達して來ても出來る樣にどうしてもならなかつたりするのは、全くこのためであります。

子供が物事を學んでゆくにあたつて、かやうな事が非常な障害になることは云ふまでもありますまい。しかもかう云ふ事は人間の一生に決して少くないのです。殊に早熟な子供や、神經質の子供には、極めてあり勝ちなことであります。ですから、子供が學校へ行く樣になり、物事を學ぶ樣になれば、できるだけ自信を與へる事を考へてやり、もし急にできなくなつたり等した場合には、直ちに、その原因をさぐり、もしそれが意志抑壓から來た樣な場合には、できるだけその自信の喪失を恢復する樣につとめなくてはなりますまい。

子供を學校に出して、出來でも思はしくないと、われ〳〵は兎角愚痴をこぼしたり、子供に「できない」とか、「馬鹿だなあ」などゝ云ひたがるものですが、さう云ふことは、こゝにお話した樣な意味で子供に意志抑壓を起させ易いものですから、氣をつけねばならないでせう。馬鹿だ、馬鹿だ、と云つてゐる中に子供はほんとうの馬鹿になつてしまふのです。

以上、私は學業の成績に關係する子供の態度として、落ちついてよく考へることと、興味をもつこと、自信をもつことをあげました。子供の學業を進歩させる事情としては、尙ほ、よくできた場合にこれを賞めることとか、自分のした事の結果を一つ一つよくふりかへらせて自分の進歩を知らせることゝがあげられますが、いづれも興味を喚起し、自信を增すと云ふことに歸します。ですから、子供をし

て喜こんで勉强する様にさせる工夫として、さう云ふことは、自然に考へられねばならぬ事でせう。

かやうに、私達が子供の學業の成績をあげようとすれば、さきにあげた躾けに注意すると一緒に、子供が喜んで學校へゆき、好んで勉强する工夫を怠つてはならないのでありますが、同時に、子供が學校を好まぬと云ふ時には、たゞ叱つたり、ごほうびで釣つたりしないで、眞の原因をさぐつて、それから治してゆくことを考へたいと思ひます。

3. からだの狀態

からだの狀態が、學業成績に關係することは、今はもう、たいていの人は知つて居ります。

幼い時の病氣のために低能になる場合もあります。腦膜炎や、腦性小兒痲痺など、殊に腦脊髄膜炎などは、その著しい例です。いつたいに、幼時の健康不健康は、一方には子供の頭の發育に關係しますし、一方には子供の躾け方にも關係しますので、子供の學業成績に關係することが多いやうです。

私は、數年前子供の就學前の罹病の狀態と、就學後の學校の成績とを比べ合せて調査して見たことがありますが、就學前に非常に頻回罹病したものは、どうも學校の成績が思はしくないと云ふ結果を得て居ります。ハシカ、疫痢、肺炎、赤痢、大腸カタールの様な、かなり激しい病氣を就學前に五回も六回もやつた子供は、先づ學業は秀れると云ふ譯にはゆかぬ様です。これは身體の狀態が學業成績に關係する先づ最初のものと云つてよい譯であります。

成績の惡い子供にアデノイドや、扁桃腺の肥大をもつ様なものが多いことは、到るところの調査で確かめられて居ます。これは學者による細かい研究の結果によつても確かめられました。即ち、この様な狀態にある子供に手術をして治療す

ると、急に學校の成績が良くなると云ふことが解つて來たのであります。ですから、この種の異常があれば、學業の進歩は妨げられると思はなくてはなりません。

寄生蟲が寄生したり、榮養が惡くなると、また學業の進歩がとまつて來ると云ふことも明かになつてゐます。ブラントンと云ふ學者は大戰中獨逸の榮養不良兒童について、榮養の補給が學業の進歩を促進したと報告してゐますし、ストロングは、寄生蟲の寄生が、殊に學業の成績に影響することを確かめて居ります。

眼が惡くなつたり、耳がわるくなつたりして、學業成績が急に退歩したと云ふことは、しば〳〵聞くことですから、皆樣もよく御承知のことゝ思ひます。眼がわるくなつたり、耳がわるくなつたりしたり、あるひは元來眼が惡かつたり、耳が遠かつたりするのは、子供はあまり自分で氣づかないものですから、殊に親としては氣をつけなくてはなりますまい。

一般に身體が病弱な場合に學業にいそしまず、從つて學校の成績の思はしくないのは、こゝには申すまでもないことでせう。とにかく、知識の門戸と云はれる眼や耳の健否、特別に頭のはたらきに關係すると云はれてゐる鼻や咽喉の病氣の有無、また學ばうとする勢力をつくる榮養に缺陷のあり、なし、さう云ふことが、からだの狀態として最も子供の成績に關係するものであると云ふことは、子をもつ親が、しつかり心に銘すべきことではないかと思ふのであります。

三　むすび

以上述べました樣な次第でありまして、子供の學業成績は、いろ〳〵な事情から、きまつて來るのであります。ですから、子供の學校の成績を見て、われ〳〵は、またいろ〳〵な點から考へて、そこに子供に對する教育の方法も考へなくてはならぬし、將來の計劃もたてられなくてはならぬのであります。

實際に自らの子供の成績について見ます場合、私はこれまでお話した逆に考へ

ていつて見たらと思ひます。まづ、からだの健康不健康を最初に調べて見るべきだと思ひます。もし眼がわるかつたり、耳が惡かつたりする樣なこと、あるひは特に學業の進歩を妨げる樣な障碍が身體にある場合には、何よりも先に、それを治してかゝらねばなりますまいと思ひます。子供をもつものは、かう云ふ意味からも、わが子の身體について、いつも注意を怠つてはならぬわけであります。

からだの、どこにも故障がない場合には、その方はまづ一安心でありますが、さうなれば、私共は子供が果して落ちついて物事をする習慣をもつてゐるかどうか、また子供が果して學校でやる事に興味をもつてゐるかどうかと云ふ事を、いろいろな機會において、觀察してゆかなくてはならぬと思ひます。そして、もし學業に對して興味をもたぬ樣であつたら、たゞ勉强を强ひる事よりも、果して、はじめから學校でやることがわかつてゐるのか、あるひは現在學校でやつてゐる事は、まるで解らないので面白くないのではないか、また時とすると解り過ぎて面白くないと云ふこともありますから、さう云ふ風ではないかと、いろ〳〵な點から調べ考へて見なくてはなりますまい。そして、それぞれ手當を加へてゆくことが肝要でせう。知つてゐる事を何遍も繰返すから面白くないと云ふ子供には、いろ〳〵な材料を與へて、また教はるときの心得などを說き示して、進んでいろ〳〵考へてゆく樣にする。全く解らなくて面白くないのは、基礎的な知識を一つ一つ積んでやると共に、何か特別な興味を見つけ出して、それと聯絡して、これを導いてやることが大切でありませう。

落ちついて物事をすることのできない習癖（くせ）に陷つてゐるものは、まづその幼い時の躾け方がどうであつたかを考へて見て、その癖をほんの僅かづゝ直してゆくやうに、したいものだと思ひます。たとへば、十分位しか注意することのできぬ子供は、親がそばについてゐて、あきるのを見たらば、もう少しと二三分をのばしてやる。それがつゞく樣になつたら、また五分位をのばしてやる。さう云ふ風にす

れば三十分、四十分注意をまとめ、落ちついて仕事に、いそしむことができる樣になります。こんな事も、そわ〳〵した習癖のある子供には、一つの矯正法ともなるでせう。

意志抑壓の樣なことが起ると、急に成績がさがりますから、常平生子供をよく見てゐさへすれば、よくわかると思ひます。また、幼い時からの子供に對する親の態度を反省すれば、さう云ふことの起るべき場合を考へて見ることができませう。それで、もしさう云ふ事が起つたと見られる樣な場合には、できるだけ自信を與へるために、その秀れた點、よい點を見つけ、それを奬勵してゆく樣にしたならば、よい結果が得られはしまいかと思はれます。

この樣にして子供の學業に對する態度、周圍のものゝ躾け方などを細かく觀察したならば、次には智能をしらべて見ることが、大切であります。と云ふのは、以上述べました樣な考へ方をして子供を見て來た最後は、いつたい、生れつきの頭の質はどうかと云ふ問題にぶつかるのが當然だからであります。

智能檢査は多少專門的な技術が必要ですから、その道の人に依賴する方がよいでせう。大都市の少年相談所（たとへば、東京の少年職業相談所、神戸、名古屋の兒童研究所、京都の少年教育相談所などの樣な）では、喜んでさう云ふことをして下さるであらうと思ひます。けれども、親がいろ〳〵な點から考へて、子供の頭の働きを見れば、多少はさう云ふことに見當もつきませうし、また子供の頭は親の頭の如何できまるのですから、父親、母親、また父親の系統の人、母親の系統の人々について、その頭のよさゝを見たり、また懷妊中の母親の生活、兩親のその當時の健康、などを考へて見たりしても、大體秀れてゐるとか、中位（くらゐ）とか、どう見ても頭がよいとは見られぬと云ふ樣なことは解ると思ひます。

かうして、最後に考ふべきものに考へ及べば、私達は自分の子供の學業成績が、さうなるべきでさうなつたのだ、よいにせよ惡いにせよ、それは當然だと氣がつ

くやうになると思ひます。そして、もし成績の思はしくない子供であつたら、それをどうするのが最善の道かと云ふことがわかると思ひます。

けれども、こゝに最後に考へておかなければならぬ事は、學校の成績と云ふものは親が非常に喜び、憂へる程、人の一生には大切なものでないことが多いと云ふことであります。學校の成績が惡いと云つて、その人間の價値がまるでないやうに考へるのは、誤りです。學校の成績は學校の成績で、世の中でよく働くことのできると云ふ事を示してゐるのではありません。學校などできなくても、世の中では立派にやつてゆける人がいくらでもあります。それと同時に、學校では成績はよくても世の中へ出ては、役にたゝない人も少くはありません。それは、世の中と學校とでは、その求められる頭の働きがちがふからです。從つて學校さへやれば世の中で立派に働けると考へるのは大間違です。たゞ併し、學校のできない子供に、たゞ鞭を加へて上の學校、上の學校と入れようとする樣なことはだめでせう。無理が多いと思ふのです。むしろ、適當な生活の方向を見つけて、將來のための修養をつませることが、その子供の將來の幸福を得させる道だと思ひます。

私達は、子供の學業成績を心配しますが、これを心配する前に、これまでお話した樣な、いろ〳〵な方面からの觀察をして見て、そこから更に子供の將來への心配をして見たいと思ふのであります。

幼兒の心理と其取扱ひ方

東京女高師教授　倉橋惣三

一

幼兒の心理を詳しく叙述して參りますと、中々限られた頁數で述べ盡すことは出來ません。併し、極く簡單に、徹底的に幼兒の心理を示せといふことであれば、極く簡單に申すことも出來ると思ふのであります。詰り、幼兒の心理は、あゝいふ風であると申せば、大抵皆さんにお分りになるのであります。皆さんのお宅で、可愛らしく遊んで居られるお子さん方、或は、そこらの往來に嬉々として樂しんで居ります子供達、その傍に行つて虛心平氣に御覽下されば、卽ち、幼兒の心理は直ぐにお分りになることが出來ます。別段むづかしい複雜なものでもないのであります。唯、こちらで、色々な考を持ちまして、學問的には、どうだらうか、兒童研究の上では、誰が何と言つてゐるだらうかなどと考へますと、幼兒自らが、吾々に示して呉れますあの姿が、或は却つて見えなくなるかも知れませぬ。併し、虛心になつて、すなほな目で、あの可愛いゝ子供を御覽になれば、直ぐにお分り

になることです。私共もそれ以上のことは知らないのであります。

一體子供の生活は、子供ではあるが、矢張り人間の生活であつて、心持といふものを本體にすると思ひます。生きて居ないものは、如何なる材料から組み立てられて居るか、如何なる法則に依つて動いて居るかといふことが主でありませうが、生きて居る生命の心理は、其の心持ちを離れては分りません。そこに觸れない限りは、萬卷の心理學書も、亦幼兒の生活を明にするものでないと思ふのであります。ところで、其心持に觸れるには、直接に子供の傍にお出で下さるより外に、其の心を捉へることは出來ないものと私は信じて居ります。こゝに、假に幼兒がどんな心理で生きてゐるかといふことを、私が見たところによつて、申上げることにいたします。

二

偖て、幼兒の心は、極めて當り前のことでありますが、第一に、遊びたいといふ心理であると思ひます。段々大きくなつて、少年期などになりましたならば、色々外のことも、或は交つて參りませう。殊に青年期になつたならば、色々深刻な問題も加はつて參りませうが、幼兒の幼兒たるの特質は、唯々遊びたいのであります。其遊びたいといふ心持は、私共が虛心平氣に傍で見て居れば、誰にも分ることでありますけれども、私共には、常に子供を敎育してやりたいと云ふ、洵に大切なことではあるが、屢子供といふものを見落す原因になるものが、此の頭の中にあります。其敎育してやりたいといふ態度を以て、卽ち、一つの成心を抱いて、子供の傍に行きますと、如何に子供が遊びたがつて居るかといふことを、或は見落すやうなことが起ります。しかし、幼兒の心として、遊びたがつてゐることは、是れ以上の言葉なく、是れ以下の言葉はありますまい。然らば、其遊びたがつてゐる子供に對して、如何なる取扱方をして行つたら宜いかといへば、卽ち十分に遊ばしてやるより外ありませぬ。遊ばせずして、色々なことをさせやうと

し向けますのは、彼等の眞實に求めるものを與へずして、こちらで、考へたものを無理强いに與へやうとすることで、幼兒の取扱方として、すべての誤りの原因となりませう。ところで、かういふ極めて簡單明瞭なることを出發點として、實際上には、それ〳〵の問題が起つて來るのであります。

成程、幼兒が遊びたがつて居るといふことは、彼等の眞に求める所であるに相違ないが、それは下らんことぢやないか、又、その求める所を充すのが、生きて居る者に對する當然の處置であるといふことも、それも分つたことであるが、けれども其遊びに對して、唯々遊ばしてやるといふやうなことは實に下らんことぢやないかといふ問題が出ます。併し、皆さんが、子供の遊びに對して、何か外の標準を以て批判されることなく、子供の遊び其ものをぢつと見詰めてお出になつたならば、それが決して下らんものでないといふことが、直ぐにお分りになることゝ思ひます。必しも子供の遊戯に關する古來の諸學者の學說を羅列致しませんでも、彼等の生活そのものを見て居りますと、そこに、色々な價値が見出されて來ると思ふのであります。一體、子供が遊んで居ると私は言ひましたが、實は遊んでゐないといつても宜いのであります。遊びと云ふのは、私共が付けてゐる言葉で、子供自身は、必しも遊びと云ふことを遊びとして、やつては居りませぬ。そこに居ります子供に、お前は今何をして居るかと、可愛いゝ頭に手を當てゝ訊いて御覽になれば、遊んで居るのだと云ふ子供も澤山ありませう。併し、それは私共の言ふ言葉を以て答へて居るので、實際は、たゞ遊んで居るのではなく、何か實際に其內容に卽した生活をして居るのであります。或は試みて居り、或は工夫して居り、或は考へて居り、或は競爭して居ります。私共大人がやつて居るのと同じ生活形式を、子供は、どれかしらやつて居るのであります。遊んで居るといふ言葉で申せば、如何にも輕いことのやうであるが、見よ、あの子供が今試みて居る、工夫して居る、考へて居るといふことでありましたならば、それが値

うちのないことだと誰れが思へませうか。

其自ら試み、工夫し、考へ、其他色々なことをやつて居る所の子供は、それによつて、自ら發達してゆく大きな機會を捉へて居るといふことは勿論でありませう。私共の場合では、多分何か外の理由から、やむを得ず試み、やむを得ず工夫し、やむを得ず考へるのであります。出來得べくんば、試る所なく、工夫することなく、又考へることなく、樂にやつて行きたいのでありますが、そこに色々な必要が出て參り、或は人から賴まれたり、或は何か結果を期待したりして、やむを得ず、せざるを得ずしてやつて居るのであります。これが、世間普通の大人の生活で、殆んど盡くと申して宜い程、外部の理由に引づられて、生活して居るのであります。故に、折角試み、折角工夫し、折角考へて居りながら、其の事に依つて、自分を成長させると云ふことが出來ないのでありませう。卽ち、結果の爲にやつて居るから、其過程が本當の價値を現して呉れません。殊に、或る結果にさへ到着すれば、それで宜かつたと思ふ。それのみか、私共は、何か工夫して、或る結果に到達した時に、案外樂々其問題が解決したりすると、少し考へ過ぎて損をしたといふ氣持になります。考へなければ宜かつた。是からは餘り考へないで片附けやうと云ふ樣な氣になる。卽ち、生活過程そのものが、私共に能き影響を與へて呉れるといふことは、結果を主とする大人の生活に於ては、極めて少いのであります。然るに、幼兒の場合に於ては、何の爲めといふことなく、何に强いられるといふことなく、世間に對する義理と云ふこともなくて、過程其ものゝ爲に過程を樂んでやつて居ります。「お前そんな工夫をしなくても宜いよ」「そんなに試みなくても宜いよ」と言ひたい程、あの遊びの中に熱心であります。但し試みるの、工夫するの、考へるのと申しても、その結果內容は、極くつまらないことです。此石を向ふに一つ放つて見たいな、一つ此垣根を飛越して見たいな、あの柿の實に手が屆くか屆かぬか、一つ取つて見たいなといふやうな、些細なこ

とばかりであります。智慧のある大人から見れば、考へるまでもないことばかりなのでありますが、それだけに、其過程に於ては、實に〳〵、眞實の生活を子供は營んで居るのであります。從つて、子供は、さういふ生活の中に於て、個々の結果に於て得る所よりは、自らを發達さして行く方に存分の利益を得てゐるのであります。是が私共と子供との生活の大きな相違の一つをなしてゐるのであります。そこで、お前は、そんなに遊びたがつて、どうするのかといふのは、つまりさう考へてどうするのか、さう工夫してどうするのかと云ふことになるのであつて、子供は、唯々考へたいから考へ、工夫したいから工夫するといふでありませう。そこに子供は馬鹿だなとも言へるし、又尊いものであるなとも言へる特質が出て來るのであります。故に、それに對して私共が存分理解してゐれば、即ち子供の生活を十分に充實して行くことが出來ると思ふのであります。

三

然らば、生活を其意味に於て充實して參るには、どうしたら宜いか、第一に、彼等をして自ら考へさせ、自ら工夫させ、自ら試みさせることであります。幼兒教育にとつて、おせつかい程禁物はありません。私共は、子供が何か考へて居ると、直ぐに手傳つてやりたがります。過日も、私は或るお母さん方の集りに參りまして、色々子供の教育に苦心して居られることに付てのお話を伺ひましたが、其のお話を聽いて居りますと、詰り歸着する所は、子供がしてゐることが、ぢれつたくなるのだといふことでありました。子供を愛するが故には相違ありません。しかし、その時の本當の自分達の心持をいへば、ぢれつたくなるので、つい口を出し手を貸して仕舞ひ、甚だしきは、引とつてしてやつて仕舞ふのであります。即ち、好意のお世話を燒き過ぎるのであります。其爲に、子供は結果を得て、其過程を失ふことになり、すなはち、自分自身の生活を失つて居るのであります。そこで私共は、子供の傍に居つても、出來るだけ氣を長くしてゐることが必要であつて

そこが亦大變むづかしいのであります。冷淡に氣を長くするのならば何でもありませぬ。あんな奴は、どうなつても宜いといふならば、何時迄も外を向いて知らん顏をして居られるが、其子の爲を眞實に思ひながら、其子供を見詰めながら、あせることなく、徐に待つて居ることは却々困難なことであります。それならば、何時迄待つて居るのか、私は時間で申上げることは出來ませぬけれども、多分一年も待つ必要はありませぬ。多分一月も、多分一日も、一時間も待つ必要がありませぬでせう。ナポレオンの言葉を藉りれば、最後の勝利は五分といふことですが、多分五分もいりますまい。ほんの少し辛抱して居れば、子供は自分で試み、自分で考へ、自分で工夫して、その生活過程の完成を自ら成し遂げ、實に心からの、にこやかな滿足の情を表はすのであります。誤つて、干渉續きの中に育ちました子供達は、生活過程の喜びを知らず、人のお蔭で旨く出來たといふ樣な、結果の喜びだけしか知らない、情ないものになることもありますが、結果は何であらうが、其完成の過程に於ける、こみ上げて來る嬉しさ、生命そのものゝ滿足、喜悅、抑へ切れない嬉しさと云つたやうなものが、其一回々々の生活に繰返されてこそ、子供の魂は成長せざるを得ないのであります。卽ち、其意味に於て、出來るだけ世話燒きをしないことが大切であると思ひます。

四

世話燒きをしないと申すと、それでは、うつちやつて置くのか、子供が何かしますれば、家庭の親達は勿論、皆の者が相戒めて口を抑へ、手を控へて、其儘にして置くのが宜いのかと申すと、決して、さうではありません。さうすると、所謂放任敎育といふことになるのであります。子供は生活過程を自ら創出し、自ら樂しみ、自ら滿足する生命の生活力を持つて居るものでありますが、併し、自分の其の生命を試み、工夫し、考へるといふ機會は、私共が適當に提供してやらなければなりません。吾々にしても、たゞ、人から「君、少しは考へろ」と言はれて

も、何を考へていゝのか分りませぬ。何か問題を提供して呉れゝば、考へろと言はれなくても考へます。子供の場合でも同樣であつて、或る機會を提供して、考へざるを得なくなるやうな道を開いてやれば、子供はそれに向つて、或はなにくそと試み、或はどうしやうかと工風し、何だらうかと怪しみ考へる機會を捉へることが出來ます。此機會を與へるものが玩具であり、遊び方であり、お友達などであります。其玩具なり、遊び方なりに依つて、さういふものを宛がつて置けば、卽ち子供は、始終遠卷に自分の生活を促進されて行かざるを得なくなつて來るのであります。其生活せざるを得なくなつて來た時に、私共の敎育は、先づ思ふ壺に嵌つて來たといふのであります。

それならば、玩具をやれば宜いか、遊び方を敎へて置けば宜いか、玩具をポンと投出して、それで打ちやつて置けば宜いか、それではまだ何となく物足りませぬ。子供は人間であります。人間としての生活を十分にやつて行く爲に缺くべからざるものは、相手であります。毬を一つ與へられましても、初めは、それで面白いでせうが、其毬を遊ぶ相手がありませんと、人間の生活としては充實しません。是は私共大人でも同じ心理だと思ひます。そこで、其子供の生活過程を十分に發揮させる爲に、相手が必要になる。ところが、此相手といふことが、實にむづかしいので、私共が出しやばりますと、やれ、それぢやいけない、やれ、斯うした方が宜い。俺も子供の時さういふことがあつたが、其時には斯うしたとか、色々なことを持出して來て、子供の現在に對してぴつたり合つた相手にはなれませぬ。其時に、子供の生活を生活として、鎬を削る樣に潑溂としてぶつかつて行くのは、同じ年格好の友達であります。幼兒の敎育に、玩具を與へて友達を與へないならば、大きな缺陷であります。或は、友達を與へたならば、玩具を與へなくても、子供の生活は十分に發揮されるといつていいものです。私共始終思ふことでありますが、子供は玩具を貰つて、玩具で以て遊ぶ爲に友達を求めるのであ

るか、友達を得て、玩具が必要になつて來るのか、どちらでも同じことになる樣なものゝ、寧ろ、友達が根本で、其友達同志の關係を充實するために、そこに玩具が求められ、遊び方が必要になつて來るのではないかと思ふ位であります。それ程、友達といふものは、幼兒生活の充實のために大切なものであります。

五

これに依つて、大體幼兒の心理及び其取扱の骨組だけを申述べました。ところが、子供はさういふやうに遊びたがつて居るから、遊ばしてやれば宜いといふのであるが、子供は、啻に遊んでばかり居るものではない。所謂活動ばかりして居りませぬ。子供でも矢張心の所有者であり、心の所有者である以上、又物思ひを致します。秋の夕暮、ぽつねんと人生を考へるなどといふことは子供にはありませぬが、毬を放り、木登りをし、駈けくらすると云ふ、活動的の方面ばかりでなく、矢張色々な心の中に思ひの世界を持つのであります。勿論子供によつて、さういふことの非常に多い性質と、少い者とがあり、餘り多く考へ込む子供は、子供らしくありませぬ。けれども、唯々遊んで居るばかりで、全く心の世界を持たぬと定めるのは、子供だからと申して、餘りに淺く、單純に扱ひ過ぎるものであります。或は色々な空想を空想し、或は色々な希望を希望し、つまり、斯うなれば宜いと云ふ世界を持つてゐます。ところで、其夢のやうな世界が心の中に現れて來たときに、子供には、それが中々實現出來ない。それを實現し得ざるのみならず、自ら、どんな世界が自分の胸にあるかを、十分に自分で見付け出すことが出來ませぬ。私共の場合には、自分には今どんな空想がある、どんな夢を持ち、どんな希望を持つてゐるかといふ事を、はつきり知つて居り、又、口に出しても言へますが、子供はそれさへも知つて居りませぬ。知らずして、唯々何となく思ひの生活が湧く、詰り、漠然とした或る方向への思ひであります。そこで、之を如何に扱ふべきであるかゞ必要になりますが、それは、子供の思つて居ることを

推察して、お前は斯う云ふことを思つてゐるだらうと、其の子供に代つて表現してやらなければならない。さうすると、子供は膝を打つて、それだ〳〵、といつて、非常な喜びを感ずるのであります。此言はんとし、或は言はんとも思はないが、心の中には確にある子供の思ひの世界を充してやるものが、童話であり、童謠であり、繪本であります。子供に繪本を與へますと、子供はそれに依つて、はゝあ、斯う云ふ譯のものですかと、學ぶのではありませぬ。學ぶのではなくして、自分の言はんとする、斯うあれば宜いと思ふ所が繪に出て居るから、是だよ〳〵といふのであります。お話を聽いて成程と合點するのではなく、新知識を得るのではなく、そこに語られてゐる自分を聽くのです。

「さうだ、實に不思議なことだ、どうして我が心があんなに分つて居るのだらう」と、話し手の口から、不思議にも自己の思ひの世界が繰出されて來るのを聽いて、愉快でたまらない喜びが起こります。又、子供の氣分が落着いてゐる時に、どこからともなくピヤノのやはらかな音が響いて來る。すると、其リズムと歌とによつて、自分の心持が自らそこに歌ひ出されて、そこに自分の世界を發見するのであります。此種の喜びといふものは、實に幼兒として最大のものではないかと、私は思ひます。之を充してやることを忘れなければ、即ち、幼兒教育の取扱に於て、第二の點が完成された譯でありませう。

一方に、子供の活動的な遊びを滿足さしてやり、次に又子供の思ひの世界を滿足させてやるといふ事と、此兩方合して子供の要求を充してやることが、大切なことでありますが、そこで、私は、玆に幼兒教育の一つの根本原理を纒め得ると思ひます。即ち、幼兒教育は、與へる教育ではなくして、子供の要求に向つて、正當に充して行く所の教育であるのです。でありますから、充すことを考へずして、與へることのみを考へるあの教育者には、幼兒は正しく扱へないのであります。充さんことを考へずして、引ずることばかり考へる世話燒きには、幼兒は本當に

扱へないのであります。こゝが、卽ち、一番初めに申したやうに、幼兒の傍に行つて凝と虛心に見なければならぬといふ意味で、さうして居りますれば、彼等の求めてゐる所が分り、其求める所を充してやれば宜いのであります。ところで、今私は、充してやれば宜いと云ふ、敎育學風の言葉を用ひましたが、充たしたくなるのが、親達の眞實の愛情であります。そこで、又約めて申せば、幼兒の敎育は、人情の眞實なる發露、それでこそ完全に出來て行くのだといふことにもなりませう。

六

さて、要求を充してやることが、幼兒敎育の第一の原理だとしまして、其要求は、活動的遊戯をせんとすることであり、思ひの世界に色々なものを畫いて欲しいと云ふことであると申しましたが、併しながら、更に玆に、もう一つ吾々が考へなければならぬことは、幼兒の要求に、それ等の事の外に、もう一つ大切なものがあるのであります。幼兒は遊びたがる、お話を聽きたがる、玩具が欲しく、繪本が欲しいが、要求は決してそれだけではありませぬ。幼兒は人間である。幼兒は活動するものといふ前に、人間であるのですから、人間として、人間を求めて居ります。卽ち、人間的要求を持つて居るのであります。よく子供の爲に玩具を買つておいでになるお父さんが、頻に玩具屋へ行つて、敎育的玩具を色々御選擇になつて、此玩具を與へたならば、子供は斯うなるだらう、此玩具が壞れる頃には、子供はえらくなるだらうなどと、色々お考へになつて、お家へ持つて歸られる。ところが、それを子供にお與へにはなつても、自分自身を與へることを忘れられる。ところが、それを子供にお與へにはなつても、自分を與へることを忘れてしまふ人が隨分あります。しかも、物を與へて、自分を與へることを忘れてしまつたならば、幼兒は全く不滿足を感ずるのであります。更に、意味を分けて考へるならば、人間を要求して居るとは何であるか。私は玆に、此大きな問題に對して、二つの極く簡單な答だけを擧げて置かうと思ひます。其一つは子供は

堪えず人からの好意を受取らうとして居る。其好意を受けて、それに依つて、自分の人間的な滿足を味はひたいのであります。もう一つは、矢張好意の一部に屬しませうが、自分の心を汲取つて貰ひたいといふ要求が幼兒に澤山あるのです。幼兒なんといふものは、そんな複雜なものぢやあるまい、可愛がつて貰へば宜いのだらう、物だけ與へれば宜いのだ、お話だけ聞かしてやれば宜いのだと考へる方もあるかも知れませぬが、決して、決して、さうではありません。又、子供は好意を求めて居るのだと、そこ迄は考へて居る人でも、そこに止つてゐる人が多いのですが、子供は、相手に自分の氣持が、細やかに受取られることを非常に喜ぶもので、謂はゞ、自分が理解されることを求めるものであります。それは唯々お前の心は分つて居るよと言はれる理解ではありませぬ。子供の心に向つて、本當に共鳴して呉れる其態度を求めて居るのであります。是がなければ、子供は何を與へられても、不滿足であります。

つまり、幼兒の取扱に二種あります。其一つは、物を與へて子供の活動性の滿足をさしてやる。一つは子供に對して好意を示し、子供の心を汲取つて、その情意の方面を滿足さしてやる。此の二方面です。多くの場合に於ては、是が別々に偏して行はれるやうであります。色々な玩具を買つてやつたり、色々なお話を聞かせてやつて、子供にちつとも人間的の滿足を與へない者もありませう。

或は、人間的な滿足を與へることのみに偏して、活動の方面を閑却することがあるかと思ひます。併し之は偏するところなく、充たされなければならないものであります。

斯ういふやうな意味で、要するに、子供の全部の要求を充してやれば宜いのでありますが、こゝに、最後に、もう一つの事を申上げなければ、話が完結しないと思ひます。卽ち、唯々要求する物を與へられて、滿足と云ふ結果だけではなく、矢張こゝにも子供は生活過程を樂しみたいのであります。或は自分に好意を示し

て吳れて、お蔭で宜かつたと云ふのではなく、其好意を示して吳れてゐる過程に對して、子供は大きな注文があります。此注文は、どういふのかと云ふと、子供に觸れてゆくことです。私共に、一番むづかしいのは、いつも、子供を扱つてしまつて、子供に本當に觸れて行くことをしない點であります。子供を扱ふことが上手なのは、下手よりは結構でありませうが、子供にとつては、時に、却つて不滿足な、いやなことであります。あの小母さんは、色々な宜い玩具を下さる。大變有難いが、何だか、わたしを丸めてゐるやうだ。愛すると稱して、弄つてゐる。可愛がると稱して、扱つてゐる。此間お母さんや姉さんがお留守になつたとき、あの小母さんが、いらつしやつたけれども、皆留守ですと言つたら、何時もと違つて、いやに素氣なく挨拶してゐたなどと、子供は思つて居るかも知れない。或は、家のお母さんは、どこかで、幼兒の扱ひ方を色々聽いて來たさうだが、それからは、いやに坊やを扱ひ出したなどと云ふやうになつたならば、誰だつて不滿足であります。のみならず、扱ふことによつては、眞實の子供の心には觸れませぬ。子供に對して大切なことは、扱はずして、その心に眞實に觸れて行くことであつて、それには、子供が單に要求して居る內容ばかりでなく、子供の姿、子供の生活相其ものを見詰めるのでなければ出來ません。輕さうであつて嚴肅で、おとけて居るやうで、眞面目で、戲れて居るやうで眞劍な、其の子供の眞實な姿は、なまじ、大人が色々なことに於て、眞劍相な、眞面目さうな、さも重大事件といつたことよりも、もつと〳〵尊いのであります。其生活の調子、生活の姿、生活の響きが分りませぬと、本當に子供の眞實に觸れることは出來ませぬ。幼兒が幼兒として、生きて行くためには、人から助けて貰ふことが必要であつて、其意味から、子供を敎育的に取扱ふことの必要は勿論、其取扱方の研究は大切なことではありますが、私は恐らく多くの方が、幼兒がどれ程眞劍に、どれ程眞面目に、生活して居るか分つてゐないのでないかと思ひます。紙數に限りあるため、ただ要點だ

け申上げましたが、賢明なる諸君の御理解を願ひたいと思ひます。

子供の惡癖について

醫學博士　杉田直樹

兒童に特有な惡癖の一二について、吾々の專門の立場から、少しく述べて見たいと思ひます。

惡癖といふ言葉は、此頃は色々なことに使はれます。何か少し子供に癖が起るといふと、その癖の本當の意味も究めずに、直ぐに惡癖といふ言葉で現はします けれども、その惡といふ字は何を現すか、是は考へやうに依つて、大層その意味が狹いのであります。例へば、社會に對して色々有害なものを云ふので、窃盜癖とか、或はそこらを放浪する徘徊癖、或は怠けて勉强をしない怠惰癖、或は怒りつぽくて、誰にでもくつてかゝる爭鬪癖、或はなにも意味なしに、面白半分にやたら暴行をする暴行癖、或は些細なことから火を弄んだり家へ火をつけたりする放火癖、これ等は、無論對社會的に見ても惡事であり、殊に之を大人が故意にすれば犯罪として問はれるものでありますから、之に惡といふ字を冠しましても、何等差支がない。しかし、社會的には犯罪とはならない迄も、嘘をつく癖、或は

殘忍に小さい動物などを虐めたり、殺したりなどする癖、或はふしだらで、一向自分の着物や持物を整頓しない癖などといふのは、道德秩序の上から見て惡癖といつてよいのであります。併しながら、一般に親が惡癖と稱んで居るものゝ中には、親が躾の上で迷惑するから、是は子供の惡癖だと云ふ風に考へて些細なものまでもさう稱んで居る傾きがあります。例へば親に口答へをするとか、或は寢小便をするといふことは、子供にとつては大した利害關係はないのでありますが、親にとつては非常に迷惑である。そこで親の立場から申して、之を子供の惡癖であると申します。それから、もう一つは、別段何等道德上からいつても、風紀上からいつても問題にはならぬし、又本人の衛生上にも著しい害はない。けれども、外見が見つともないから惡癖であるといつて居るものがある。例へば鼻を弄くる、變な手つきをする。又お互にも話してゐる間に色々な口癖があつて、「つまりその」、「恐らく」などといふ文句をさもない所に頻發する人がある。少し注意深い人が、之を數へて何回言つたなどと第三者からいふと、驚くほど澤山この口癖が出る。斯ういふ風に、誰しも一寸話に詰ると、「卽ち」「それから」などと口癖が出ますが、さういふことまでも、若しそれが子供に現れると、惡癖だと親が言ふのであります。卽ち格別其子供の將來の爲にも、社會にとつても、害も何もないことではあるけれども、側から見て、少し見つともないといふ所から、惡癖と呼ばれて居るものもあるのであります。隨つて普通に惡癖と稱んで居る其惡癖なるものの中には、所謂價値判斷の上から申しまして、どういふ點が惡なのであるか、疑問のものもあります。惡癖といふ言葉は、誰しも平生使ひますけれども、それを詳しく嚴密に分けて申せば、何を指さしてゐるのかといふことは定つて居らないのであります。

そこで惡癖についてゞありますが、一體惡癖と云つてもどの惡癖について話をして宜いのか一寸困難でありますが、まあ私共の立場としては例へば鼻くそを

ほじくつたり、疊の毛ばを捲つたりするやうな、神經質の子供に屢々見られる神經病性性癖のことを一通り申し上げて見ませう。斯ういふ神經性の惡癖はそれを制して止めるやうにするのは、割合に容易いことでありますし、又それは、醫學の上から見て其の發生の原因も大抵分つてをり、或は又さういふやうな癖は、どういふ危險があり、又一方にどういふ利益があるのかといふやうなことを、それ〴〵分つてをりますから、之について申し上げるのも或は兒童の教養の御參考上無益ではないと思ふのであります。又さう云ふお話ならば私共としても非常に申し上げ易いのであります。しかし一方の盜癖とか、暴行癖とかいふやうな、社會問題に關係のある惡癖についてお話を申上げることになると、其矯正法といふ上には、單に精神病學上の事柄許りでなく色々刑事上、社會政策上、その他家庭に於ける色々な複雜した教養上の問題が、そこに這入つて來まして、殊に學校とか感化院とか懲治監とかいふやうなものが、一番問題の主題となつて來ますので、話が混入つて來るのであります。斯うした少年保護問題の上の事も重要な事柄ではありますが、今回は之を省きまして、先づ第一に、神經質の兒童に現れて來ます處の性癖、それは惡癖とは言へないまでも、みつともない癖の一二の種類について申上げ、それはどう云ふ風にして起るか、それにはどんな風な種類があるか又その矯正法如何と云ふやうなことを、主として述べて見たいと思ひます。

神經質といふ言葉は、今日世の中で廣く用ひられて居りますが、精神病學の方で神經質といふのは、その子供の神經系統の現れに、生れながらにして異常の傾向がある。その異常の中著しいのは、感覺性に於て普通の人と違つた所がある。其ために、色々な神經を働かす仕事の際に大層疲れ易い、疲勞を普通人よりも早く起し易いといふことが、その特質になつてゐる。之を譬へて申しますと、マッチ一本で以て、紙屑や鉋屑には能く火がついて、ぱつと燃え上つて、一時は非常な火力を呈するのでありますが、直ぐ消えて了ふ。之に反して、炭か何かに火を

つける時には初めのつきは惡いが、一旦火がついたなら、中々消えない。神經質の兒童は、丁度鉋屑か紙屑のやうに、一寸したことから直ぐに烈しい感動を起す。身體に少し觸られても、死ぬやうな聲を出して痛いと云つて泣く。それらは、過敏症の爲にさういふ激しい反應を呈するのでありますが、併し間もなくケロリと忘れて了ふ。今鳴いた烏がもう笑つたといふことを子供は申しますが、感情の動くのも早いが、又直ぐに元のやうになつてしまふ。然るに意思の堅固な、神經系統の固まつた子供でありますと、直ぐ感じて、直ぐに忘れるといふことは、比較的少いのであるが、神經質の子供では、感じ易い代りに、又直ぐに疲れてしまふから、注意を一點に何時迄も固定することが出來ない。勉强せよといつて書物を與へても、面白い本だと一寸の間は夢中になつて之をよむが、直ぐ倦きて棄てしまふ。又そんな時に、親や教師の方で、讀めば菓子をやるとか、其外いろいろ懲罰や懸賞をつけたりして、無理矢理に勉强をさせるやうにしますと、一時御褒美や罰の爲に感動されて、一生懸命にやりますが、元來疲れ易いのを推してさういふ無理な勉强を續けるのですから後には、或は神經衰弱、或は慢性の神經病を起し易いのであります。それが爲に今日の教育者や醫學者の間では、神經質の素質ある兒童は、小さい時分から親がよくいたはつてやり、又學校の要求も、其子供に對しては、非常に制限するやうにして過勞に陷らないやうに注意して居ります。隨てその子供は、餘り過重な負擔を其神經系統に與へることがないから、どうにか斯うにか子供の時代は堪へて行くけれども、それが年頃になつて、身體的に總ての發育が完成するに從つて、社會や家庭の方の負擔も段々大きくなり、又學科の負擔も加はつて來る。殊に十五六にでもなると、家庭も社會も其子供に相當な要求をするやうになり、いろ〳〵な用事が課せられる。少い時分のやうに誰ももう斟酌してくれない。そこで愈々神經の過重な負擔に堪へなくて、神經系統の破綻を起して、何等特に著しい原因がないのに拘はらず、生來著しく神經

の弱い素質を持つて居るものでは、自づと思春期頃に男ならば神經衰弱、女であるとヒステリーとか、其他色々な病氣を早くから起し易いのであります。而もさういふ神經系の病氣は、一旦起すと中々癒り惡いのみならず、癒つたとしてからが普通一人前の働きの出來ないやうになつて了ふ者が多いのであります。であるから、神經質の兒童は、成るべく早くその素質を見出して、小さい時分からさういふ子供に對する特別な教育法を施し、又家庭にあつても成るべく特別に注意して合理的な躾けをして、その神經系の破綻を來さないやうに注意を怠つてはならぬのであります。しかし又神經質の兒童は惡い方面許りではなく、一面には非常に物事に綿密な所があつて、細い事にまで注意が届く、又大層色々な技能に器用である。色々さういふ捨て難い特徴もあるのでありますから、さう云ふ特徴を基としてなるべくよい方面の能力を伸ばすやうにし、一面の惡い所を成るべく早くから矯正して、其神經質に基く神經病などが起らないやうに、其子供の將來を過まらないやうにしてやらなければならないのであります。是は、今日世界各國に於て、病的の兒童を扱ひます教育法をいろ〳〵研究する專門學者に於て、重大な問題として考へられて居る所なのであります。

さうして、此神經質を有する子供が、一體どの位の數で世の中にあるかといふと是が年々殖える一方なのであります。最近亞米利加の或都市の小學校で、神經質の徴候を持つて居るものが、一級の兒童の中にどの位含まれて居るかといふことを、專門の醫者が調べて見ましたところ、大體小學校の上級生の中で、詰り十歳或は十一二歳位の子供に於ては全級の平均三分の一、或は四分の一位が皆神經質の徴候を持つて居る。其上之は上級へ行くほど多くなつて、中學校或は高等の學校になると、神經質兒童とは言へないかも知れないが、神經質の徴候を持つて居る生徒數の割合が段々殖えて來る。殊に社會に出て、官廳、銀行、會社などに勤めてゐるものを調べて見ると、それらに働いて居る人の半數以上は、神經衰弱の

徵候があるといふ統計が出てゐる。何故上級に行く程殖えるかといふと、詰り小さい時に萠した神經質の徵候が何等の豫防もせられず、又それに對する注意が拂はれない爲に、段々學科の負擔等の多くなるにつれその神經質の傾向が、段々强められて行くやうになるからであります。それが爲に、年長になるに從つて、其神經質の徵候を有つ者の率が、多くなるのだと說明されて居ります。隨つて小さい時分に早くからそれを發見して、それに對して色々な手當や注意を致して豫防して置けば、年を取つても神經質が嵩じて行くことのないやうに豫防法を講ずることが出來るのでありますから、家庭や學校や、其他、其兒童に接觸する色々な人々が各方面で段々行届いた注意が出來るやうになりますれば、國家としても、此神經質兒童を段々少くして行くことが出來はしないかと思はれます。ところが、悲しいかな今日の社會の逼迫した狀勢では、益々此神經質の兒童を造り上げて行くやうな傾向が見えるのであるが、是は、恐らく早晩何處か社會の表面に此現象の特徵が現れて、大きな國家的の問題になる時節が來るだらうと思ふのであります。

それならば、どうしたらば其神經質の兒童を家庭に於て早くから發見することが出來るかといふと、神經質兒童は、兎角前述の通り惡癖を起し易い。詰り惡癖とはいつても、輕い意味の惡癖でありますが、兎に角何かの性癖を持つて居るものが、神經質の子供に甚だ多いのであります。今是からお話を進めて參る間に色々な例を擧げますが、其例に相當するやうな子供は、神經質を持つて居るものであると、普通考へられて居るのであります。さうして、その癖を直すやうにするには、次第に依つては專門の醫師に相談をして、出來るだけ其子供の將來について合理的な方法を講じてやることが必要であると思ひます。其意味から申して、兒童に現れる惡癖といふものは、可なり診斷の上に於て、其子供の神經質の存在の有無、或は其の程度等を定めます上に、重要な徵候となるのであります。今先づ、順序を關はずに、其著しい例から申上げて行きたいと思ひます。

第一は寢小便であります。是は子供の惡い癖として、殊に母親は、非常にそれに付て心配されるのであります。兒童は滿一年、或は一年半位迄の間に膀胱に對する神經の作用が完成致します。隨つて誕生を過ぎた子供ですと、晝間起きて居る間には、必ず大小便を敎へる筈であります。勿論其の敎へ方は、家庭に依つてその仕込んだ方法がいろ〳〵であつて、一樣に申上げることは出來ませぬが、或はうんちうんちと聲でいつたり、或はいきなり母親の側へ行つて便所へつれて行かうとしたり、或は身振りをしたり、或は聲を出さないでも樣子で知らせるといふこともありませう。兎に角膀胱が充滿し、或は直腸が充滿すれば、それが或る感覺を起し、從つて排便の運動を促しまして、それを外部に發表して、排便の時期を敎へるのであります。ところがさういふ普通の兒童でありましても、まだ滿二年の終り、或は三年の初め位の頃迄は、多少夜寢て居る間には神經が鈍る。從つて夜だけは襁褓を當てますとか、或は親が夜中に搖り起して排便をさせるとかいふやうな注意を怠りますと、眠り込んで其の感覺を感じない爲に、つい敎へないで床の中で洩してしまふといふことが、有り勝ちなことであります。併し滿三歲以上になれば夜中でも尿意を催した時には必ず目を覺ますか、或は目を覺まさないでも、夢の中に其尿意の不快さが這入つて參つて、その爲に子供は身體をむづかり出したりするのである。併し神經質の子供であると、小さい時から尿意が近い、卽ち小便が割合に近いといふのは、膀胱に一種の過敏性がありまして、それが一杯に充滿しなくても、少し尿が膀胱にたまると何となく不安な心持が起る。であるから、健全な子供の尿の回數と較べて見ると、神經質の子供は尿を敎へる回數が多い。さうして夜分になると、神經質の子供は寢つきが惡いのであつて、しかも一旦睡眠に這入るといふと、膀胱の括約筋の力が弱るといふためですか、兎に角しまりの力が弱くなつて來る。そこで、睡りが淺いことゝ、神經質特有の神經過敏から尿意が起り勝ちであることゝ、又膀胱の括約筋の力が弱いといふや

うなことと、其等一切の條件から、寢小便を能くするのであります。小兒科のお醫者などに訊くと子供が寢小便をするのは、餘り宵の口に水氣の物を澤山やるからである。それが爲に、子供がぐつすり寢込んで居る間に膀胱が一杯になつて來る。けれども、すつかり熟睡してしまつて子供は尿意があつても之を感じないから、そこで洩してしまふ。だから眠る前に親が一度小便をさせて寢かすか、或は夜中にでも起して小便をさせたらば必ず寢小便することはなからうと言ひますがさう云ふ場合も實際ありませうけれども、併し事實上子供に當つて見ると、夜中に母親が起して小便させると、少しはしますが。けれども再び床に就くと直ぐに又寢小便をするといふやうな子供もあります。其結果處置に困つて、ゴムの袋などを宛がつて置きますが、さうした時、其の一回の遺尿の分量を量つて見るといふと、膀胱が充滿した場合ならば相當な分量(一五〇—二〇〇瓦)がある筈でありませうが、寢小便を能くする癖のある子供の一回量は案外少い。三十瓦乃至五十瓦しかないこともある。極く少量しか出ない。さう云ふ點から見ても、神經質兒童の寢小便の癖は、何か神經作用の上の異狀の爲めではあるまいかといふことが、先づ普通に醫者の方から申すと診斷が付くのであります。又その一回の尿量が少いばかりでなく、十分に排尿をさせてから寢かせても、床に就くと間もなく遺尿をするものであるから、之は膀胱の方に何か病的の點があるに相違ない。さういふ兒童には、特に神經を强めるやうな藥(硝酸ストリキニーネ一回量〇・〇〇〇五)を丸藥などに造つて、毎日寢る前に呑ませる。さういふやうに、神經の强壯劑を毎晩々々續けて呑ませると、確に遺尿が少くなり、或は綺麗になくなつてしまふ例も多いのであります。

遺尿は、一體どう云ふ子供に多いかといふと、異常兒童に多い、お聞き及びでありませうが、低能兒の學校の寄宿舍とか、或は感化院の寄宿舍とか云ふ所に參ると、十歳以上十三四歳の子供が澤山居りますが、大抵の場所ではその半數以上

遺尿する者がゐます。私が或る感化院へ見學に參つて實見しました所、四十人からの收容兒童の中、二十四人までも遺尿の癖の者が居つた。そこの院長は非常にその處置に困つて、二十疊位の子供の寢部屋に、眞中の三疊か四疊程は疊を敷きまして、其廻りは板敷にした。そして、寢小便をする癖のある子供は板敷の方に寢かせ、寢小便をする癖のない者は疊の上に寢かせるといふ、一種の刑罰と奬勵の意味と、一方には幾らか疊の汚れるのも助かるといふ經濟上からさう云ふ方法を執つてゐた。ところが、兎角遺尿をするやうな子供は、寢相が惡くて、幾ら板敷の上に寢かせるやうにしても、夜中にごろ〳〵と轉つて行つて、擧句の果てには疊の上に行つて遺尿するものがあつたといふ話でありました。さう云ふやうに、不良兒などを集めて居る寄宿舍などには、相當の年になつて迄も遺尿をする子供の率が多いやうである。斯く神經系統の發育に異狀のある者に遺尿癖が現れることが多い事實を見ても、或は一般兒童に見られる現象や、其他の個人的な觀察から見ても、遺尿の癖は、神經質の兒童に著しく現れて來る特種な神經の病的の現象であることが云へるのであります。滿二歳位迄は已むを得ないが、十歳を越え、或は二十歳になつても尙寢小便の癖があるので、お嫁にも行けないといふやうな者があります、さう云ふのは、神經系の病的の徵候が現れて來た結果で、果して之が病氣であるならば、幾ら翌る朝になつて、濡れた布團を負はされても、戸外に追ひ出されても、さうした懲罰は遺尿を止める利き目のないもので、つまり寢小便は總て意識的に行ふものではありませぬ。それを、兒童が勝手にやつたものゝやうに考へて、翌朝親が床のぬれたのを發見しますと、親は、自分が洗濯や何か特別な用事が殖えるから、つい腹が立つ、そこで、寢小便をするやうな子は家に置けんとか何とか叱つて、毆つたり抓つたりして懲罰を與へる。尤も中には朝寒いから小便に起きるのが面倒だから、本當の惡意から寢小便をやつたやうな場合には、懲罰に値するかも知れないが、神經質の徵候として現れて來た遺尿症

に對して懲罰を加へると云ふのは、何等の意味がない事であるのみならず、さう云ふ、自分が責任を持つことの出來ないものに對して迄も懲罰されると云ふと兒童の性格は卑屈になります。のみならず、それは兒童の將來に非常な惡い影響を起すものであります。

そこで、さう云ふ場合には、其原因がどこにあるかといふことを先づ第一に考へ、さうして、どうも是は病的らしいと云ふことを親の方で氣がついたならば、先づ是は醫者の領分に委して、其治療を受けることが必要なのであります。斯う云ふ神經質の子供は、單に遺尿するばかりでなく、それに伴つて神經質の徵候を同時にいろ〳〵示してゐます。例へば、癇を立てて直ぐ泣く癖、それは、吾々自身の子供にもさういふ癖があつて、極く些細なことで泣出す、或は自分の一寸した持つてゐる物を兄さんや姉さんに取られても、直ぐワッと泣き出す。是が神經質の子供だと云ふと、感情のさつぱりしない所がある。普通の子供ならば、初めは泣いて居るが、取られた品物が自分の手に戻れば、それで滿足してにこ〳〵に戻る。滿足な表情を示すのが當り前でありますが、神經質の子供は一旦泣き出すと、人が宥めても、希望通りに無理を聞き届けてやつても、中々泣き止まない。其子供の泣いて居る最中になまじやさしくして宥めたりすると、愈々聲を張上げて泣く。終ひには泣きじやくりまでして、例へば親に叱られて泣き出した時、もう好い子だから泣くんぢやないよ、泣くと戸棚に入れてしまひますよと云ふと、子供は、もう泣きません、泣きませんと言ひながら、自分では泣き止まうと思つて努めても、獨りでに泣けて泣きやめない。しやつくりが起るやうに、何かに後から押されでもするやうに泣けて泣けて仕方がない。大人の場合と子供の場合は違ひますが、大人は能く能く悲しい、苦しい時でなければ、眞から泣けるものぢやありませぬ。役者などは、色々の表情の上から臨機應變に泣いて見ますが、本當に泣く悲哀の情といふものは、大人に於ては任意に起すことが出來ない。けれども子供

は、大人が芝居をするやうに、任意に泣けるのであつて、子供は泣きたいと思ふ時にはいつでも本當に泣ける。尤も、泣いて見ろ、泣いて見ろと云つても、泣けない子供もありませうが、何か自分に必要を感じた場合には、直ぐわつと泣き出すことが出來る。子供が何處かに親につれられて行く、ふと顏を上げると、今迄一緒にゐた親の姿が見えない。さては、親が自分を棄てゝ、何處かへ行つてしまつたのではあるまいかと思ふ途端に、急にわつと子供は泣き出す。それは決して嘘や僞で泣くのではない。子供は眞劍に泣き出すのである。その代り、又何時でも泣き止める。そんな時に、親が子供の泣聲にびつくりして直ぐに駈付けて來て、子供に親の顏を見せてやると、直ぐぴたりと子供は泣き止む。斯う云ふ工合に、感情にこだはりがなくて、さらりとしてゐると云ふことが、健康な兒童の特徵である。是が神經質の子供ですと、さうさらりと行かない。小さい時から、健康な兒童とは、その泣き振が違ふ。大抵は苦痛から泣くのでなく、些細の不平不滿から泣き出し、泣くと同時に癇を立てまして、着物を破いたり、或は障子に穴を明けたり、或は何か親の大切にしてゐる物を壞したり、色々な泣くことに伴つて、復讐的のお芝居することがある。さう云ふ風に一旦感情が損はれますと、其感情が比較的詰らない原因で害されたにしても、執拗だし、何時迄もそれを氣にかけて、根に持つてゐて怨を返さうとする。若しさう云ふ現象が兒童期に於て現れたとすれば、それは神經質の特徵と考へて宜しいのであります。

それから、神經質兒童にはその感覺性に異常があるものが多いのであります。感覺性の異常と云ふことは、色々な方面から考へなければならぬけれども、必しも感覺の鋭いとか何とか云ふことばかりでなく、感覺に性質の違つた所がある。例へば鼻くそをほじくる癖について申しますと、是は最初は、一寸鼻の中に腫物でも出來たとか、或は何かの關係で痒いやうな感じが起つたとかいふことがあつたに違ひない。そこで指を突込んで搔いた所が、大變好い氣持がした。尤も其好

い氣持がするといふのが、神經質の特徴であつて、普通の子供は、好い氣持はするかも知れないが、それと同時に、甚だ見つともないことだ、恥かしい事だと考へ、親も干渉し、自分でも體裁の宜いものぢやないと感ずれば、その感覺を抑へて自制をすることが出來る。ところが神經質の子供は、所謂感覺性が異常だと云ふ爲か、感覺にさう云ふよい氣持が大變强く響く、其爲に見つともないと感ずる餘地もなくなるのである。自分でも改めたいとは思ふが、知らず知らずに手が動いて行つて、衆人環視の中でもやつてしまふ。鼻くそをほじくると、鼻の粘膜に對する感覺が、何とも言へず愉快になつて來るものらしいのです。是は飲酒癖についても同樣であつて、お酒飲みが、酒好きになる初めは、大抵其酒を飲むことに依つて、非常に愉快な感覺を受けたからさうなるやうである。酒に醉つて、陶然とした氣持は、何とも言へないよい心持である。併し本當に神經系の健全な人であれば、酒の香だけでもあまり愉快には感じない筈である。隨つて又醉心地なるものが何となく不快な心地のわるいもので、青年など初めて酒や煙草をのまされる時決して之をうまいといふものはない。然るに强いて數杯のむ間にうまいといふ感じが出來て來る。健康な人はいつまでもアルコール中毒に依つて、聊かも愉快な感覺を生じないから、そんな人は酒を好むやうにならないが、酒を飲む習慣のある人は、普通の人が少しも好いと感じないやうな感覺を、何とも言へない、陶然たる無上の快味に感ずるので、本來酒に對する感覺性に異常をもつてゐるものと考へられる。酒精中毒症は、神經質と同樣に遺傳の關係がいろ〳〵ありますから、茲に又色々な酒に對して社會的の問題が起つて來るのでありますが、それはさておき神經質の兒童では、最前申したやうな感覺性に異常がある。又鼻の痒かつた時などに、指を突込んで搔かないで、鼻を指で抓んで動かしたり、或はふん〳〵といはせて、それに依つて鼻の氣持が好くなると、其子供は始終顏を顰めて、鼻の快味を味はうとし、又少し鼻の中が痒くでもなるとふん〳〵やるやうな

癖が出來て來る。或は人によると、鼻を二本の指で抓んで、目茶苦茶に搖り動かす癖の人もあるが、是等は、其癖そのものゝ發生が、感覺の異常に存在して居るのであつて、其感覺の異常に滿足を與へますと、何とも言へない好い氣持が起りまする爲に、ついそれをやつて了ふ、それを側から制止しても、止めた方が宜いと云ふことは、當人自身百も承知であるけれども、止めることが惜しい、どうしてもその感覺性に釣込まれて、到頭それが習慣付いて、何時迄も直らぬやうになるのであります。或は爪を嘗める、或は指をしやぶるといふやうな癖でも、矢張同樣な原因で起るのであります。そこで爪を嘗めるとか指をしやぶるとかの癖は癖自身としても、見つともないものでありますが、それは特に身體などに惡いことがある。例へば手は不潔になり易いものであつて、若し手についた黴菌などがしやぶる時の何かの加減で口腔內に入るとか、或は延いて胃腸や、氣管などに這入ると、色々な病氣を起す原因になることもあるのであつて、是などは餘程氣をつけねばならないことであると思ひます。

又神經質の人は、威張る癖、無暗に人を打つ癖がある。詰り感覺過敏ですから、運動のモーションが早くて、例へば字をかくにもゆつくりと筆を運ばすことが出來ない。私等もさう云ふ嫌ひがあるが、一の字を書くにしても、先づそつと筆をつけて、ぐつと力を入れて徐に引廻し、又力を入れてぐつと止めるなどと、落着いてはやれない。すつと、あつさり引きつばなしに書いてしまふ。習字の稽古の時には、さう云ふことをゆつくり習ふのでせうが、元來氣短かなのと、又自然の筆癖でさう云ふやうに筆早を習ひ易い。つひぞんざいな字をかく、であるから、其の人の筆蹟を見ると、其の人が神經質の人であるかどうであるかが、能く分ることがあります。併し總てと云ふ譯ではありませぬが、是等は意識的に注意をすることに依つて直すことが出來るのであります。一體に、男子の文字と女子の文字とを較べると、女子の文字には、非常に神經質的の字が多い。概して細い字で

書いてあつて、一畫一畫に力が這入つてゐない。又角々が丸くなり易いといふやうな、色々神經質特有な現象が現はれて居る。それから瞬目をする癖、是も神經質の一つであつて、初めは些細の原因から起つたのでありませうが、是も餘り體裁の宜いものではありませぬ。さう云ふやうな、色々な神經系統の上に現はれて參る習慣的に起る癖は、惡癖といふ言葉は或は當らぬかも知れませぬが、兎に角見つともない。此見つともないと云ふことは、女子でありますと、先天的に虛飾心が強くて見榮坊ですから、成るべく人樣の前では見つともないことをしないで、とりすましてゐたいやうな本能がある爲に、殊に盛裝をした女の方などが、鼻くそをほじくつて居るのは、餘り見られたものではない。隨て體裁の上から人に言はれなくても、自然に年頃にでもなると自覺的にその癖を直します。だから自覺的に其の發生を自分で豫防するやうになるのでありますが、男の子では、さう云ふ本能が割合に薄い爲に、神經質の子供がさう云ふ癖を付けると、露骨に何時迄もその癖を殘して置くものであります。

それからお客と對談してゐる時に、火鉢の灰を搔き廻したり、煙草の吸殼を解いて粉にして見たり、或はそれを灰の中に撒き散かしたり、或はマッチの軸木を折つたり、或は疊の毛を搓つたり、或は羽織の紐を解いたり結んだりするやうに、少しもぢつとしてゐられない癖がある。絶えず身體の何處かを動かしてゐる。ぢつとしてゐることに堪へられないで、何かしてゐないと物足りないで、いつも無意識に身體を動かす、さう云ふ運動の方面の一種の神經過敏の癖があります。さう云ふ癖は、本人が自覺さへすれば、直せるものでありますが、大抵は本人が、例へば貧乏搖ぎなどを始めますと、その運動から非常に愉快な感觸を與へられるもので、隨て其の時には有ゆることを皆忘れてしまつて恍惚として貧乏搖ぎをやつて居る。ですから、神經系統に異常があつて、それから生ずる性癖を直しますには、先づ本人の自覺が必要でありまして、絶えず氣を配つて居れば、矯正の出來

ないことは決してない。けれども神經系統の異狀を病氣と云ふ立場から見て、その立場に立つて考へてやることも必要である。家庭の色々な處置として、癖そのものを直さうとする努力も大切であるが、それはむしろ著しい效果のない場合が多い。寧ろ直接に矯正しやうと心掛けるよりも、他の良い癖を代りにつけてやるやうに努める。例へば、貧乏搖ぎをするとか、或は變な手つきをする癖のある子供には、ピヤノを習はせるとか、オルガンを彈かせるとかすると、さう云ふ新しい良い習慣的運動のために、惡い他の習慣が轉導されて直つてしまふ。音樂をやつてゐる時には、貧乏搖ぎも出來ないわけです。さう云ふ惡癖の擧動を含まない、丸つきり他の懸け離れた良い習慣を自覺的に新しく造るやうにしますと、惡い癖を自然と努力せずに直すことが出來ます。殊に大人では中々一寸やひよつとの刑罰位では染みこんだ惡癖は直らないから、さう云ふのは、他の良い習慣を養つて、さうして今迄の惡い習慣を轉導すると云ふ風にするのが、先づ矯正法に付ては、唯一のよい方法と言はなければならぬのであります。

其他徘徊癖、盜癖、裸になりたがる癖、怠け癖、色々な物を壞したがる癖、火いぢりをする癖、是等は凡て人間の原始本能の現れでありまして、所謂隔世遺傳と云つて、詰り古い〳〵吾々の先祖が、遊牧生活をしてゐた時代に現して居つた日常生活上の習慣的の行動が、引續いて吾々の神經系統に固着して現れて來るのだと解釋されて居りまして、幼兒の頃に誰しも一度はその本能を現はして來るが、段々教育の力で直つて抑制されて行くのであります。さう云ふ癖のいつまでも殘つてゐる時の矯正には、單に叱ると云ふことばかりでは駄目です。それは所謂團體的な行動や、社交的な方面の良い習慣に慣れさせて、社交本能、名譽心等を强く起させるやうにすることに依つて、それらを良き方面に誘導さして、原始本能の力を弱くするやうにすると云ふことが必要であります。何れにしても、一言にして申せば、吾々が今日惡癖として考へてゐるものの中、小さな鼻くそを

ほじくるやうなことから、進んでは社會的に色々な意義を持つてゐる暴行癖とか盜癖とか云ふやうな、不良少年の示すやうな犯罪的の傾向に至る迄、之を發生心理學とか、神經病理學とか云ふ、色々な方面から解釋して見ますと云ふと、一々其發生の原因がある。必しも惡い習慣となるものは、兒童が意識的に拵へ出したものではなしに、寧ろ病的の原因に依つて自づと起るものが多いのであります。隨て病的の原因に依つて起つたものならば、それを矯正する意味に於て、單に躾とか、刑罰とか云ふやうな外面的の方面以外に、所謂教育學上の知識を斟酌致し、又醫學的の立場から考へて其の癖を內面的に矯正治療する方法を圖ると云ふことも、是も考慮すべき一方面ではなからうか、無論有ゆる癖が、吾々から見れば醫學的の方法で癒ると申すのではありませぬが、少し言を大にして申せば、寧ろ大部分のものが神經系統の異狀に基いて起るのであつて、隨てさう云ふやうな癖の矯正に於ても、今迄の方法とは違つて、多少眼界を廣くして、醫學の立場から、それを眺めると云ふことも、必要にして有效なことではないかと思ふのであります。是等の立場からどう云ふやうな解釋をし、どう云ふやうな方法を執るかと云ふことは、何れそれ等のことを記してあります書物に書かれてもありませうし、又さう云ふ方面に注意を拂つて居る小兒科なり、或は神經系統なりの醫者に御相談になれば、相當の處置が講ぜられ得ることゝ存じます。

日本兒童の素質

文學博士　松本亦太郎

抑々、個人の發達、或は民族の發展に於いては、素質と廣い意味における教養と云ふものが、規定者になるのであつて、この二つによつて行くべきところが定められるのであります。素質と云ふのは個人なり、民族なりの生來卽ち、俗語で云ふ質（たち）であります。その人に依り、その民族に依り、夫々生れつきの稟質と云ふものがあるものであります。それは、後から加へられたものと違つて、生來的の施設と云ふやうな語卽ち、英語のネエテイヴ・エクユイップメント（*Native Equipment*）と云ふ語で素質を現はされるものであります。

人の素質は、身體的の素質と精神的の素質とに分けて見ることが出來ます。身體的素質と云ふのは、細かく部類を分けますと、隨分色々な方面から、これを考へることが出來ますが、全體の働きは、生命なる現象になつて現れて來るのであります。身體的素質の弱い者は、生命を保つて行くことが困難であります。

嬰兒の生命に關して觀察すると、その生命の消滅、卽ち死なるものが、その素質

によつて誘ひ出される場合と、取扱ひの粗末なるが爲に、嬰兒を弱くし、死を到來せしめる場合とがあつて、卽ち、取扱ひが惡いために生命を消滅させることがあります。この二つの原因は、相互ひに結びついて居るので、これを明瞭に分けて見ると云ふことは困難であります。どれだけが、素質から來た消滅であり、どれだけが、取扱ひの粗末から來た消滅であるかと云ふことは分ける事が困難でありますが、併し統計年鑑などを見ると、畸形、先天性弱質と云ふ項目が出てゐますが、さう云ふ畸形、卽ち不具や先天的に弱いために死ぬのは素質が惡いのであります。ところが、又統計年鑑には、外因の死と云ふのがありまして、例へば乳房で窒息されるとか、或は火傷を負ふとか、或は水におぼれて死ぬとか云ふ外部よりの原因によつて嬰兒が死ぬのであります。ヂフテリアで嬰兒が斃れると同じ位の數において、外因の死によつて嬰兒が斃れて行くのであります。これ等は、全く親の取扱ひの粗末、或は保育者の不注意から結果するものであつて、素質から生命を消滅させるのではないのであります。

で、嬰兒の死を色々な方面から觀察すると、或る程度までは、死に對する影響を、先天的と後天的とに分けて見ることが出來るのであります。この後天的の影響と云ふものは、親、保育者の努力、或は公的の施設によつて、これを輕減することが出來るのであります。先天的の素質から來る生命の消滅と云ふことは、一旦生れ出たならば容易に救ふことは困難でありますが、親の考へ方によつて將來に生れんとする者の素質を良くして行くと云ふことは出來るのであります。併し既に生れたものは、或る素質を持つて出て來てゐますから、それをなほすことは餘程困難であります。後天的のものは、親の注意、或は保育者の注意によつて、それから來る生命の消滅と云ふものは取除いて行くことの出來る性質のものであります。

そこで、日本の兒童の生命に對する素質を見るために、少し統計的の事實を擧

げて見たいと思ひます。最近の統計年鑑、大正十一年、或は十三年位までの統計によりますと、一年に日本全國において受胎される數は二百十萬餘人であります。丁度その頃の東京市の人口に相當しますが、その中の約二割二分、即ち四十六萬人位が、出生の前後の一年以内に死亡致して居ります。出生の時を時期として見ると、その前後一年間に四十六萬人程の子供が死にます。その時分の横濱の人口が、それより少し少いのでありまして、當時の横濱の人口は四十萬五千で或は今はもう少し増えてゐるかも知れませぬが、即ち二百十萬人の内、四十六萬人の子供が生れる前後に死ぬのであります。丁度胎内に宿る四人の内、一人弱が死ぬると云ふ割合になつて居ります。これは、明治の末年の統計と比較しても矢張り同じでありまして、二割三分を示して居ります。詰り、大きな數で表しますと、東京の人口だけが、一年間に受胎され、横濱の人口より以上の者が生れる前後に亡くなつて行くと云ふ勘定になるのであります。この内には、死産も這入つて居ります。それを除いて、生きて生れ出た嬰兒の内、一年以内にどの位の數が死亡するかと言ひますと、一割六分六厘、これが乳兒の時代に亡くなるのであります。これは、全部の平均でありますが、最もその死亡の割合の多いのは大阪府でありまして、大阪府は二割三分三厘程であります。これは、嬰兒の素質が弱いのであるか、或は境遇が不良であるのか、あの様な製造工業の盛んな土地でありますから、不衛生なところがあるのであるか、或は親の不注意であるのか、それは統計年鑑に現れたところでは一切分らないのであります。併し、兎に角それ等が原因になつて、大阪府は日本における最大の死亡率を現して來るのではないかと思ひます。大阪府は、嬰兒のためには危險區域であります。大阪に次いで略大阪と同じ位の割合で乳兒の死ぬのが青森縣で、これが二割三分になつて居ります。その次が、秋田縣、山形縣、この三縣であります。青森、秋田、山形の三縣は、大阪に次いで死亡率が非常に多く、二割以上に及んで居ります。故に生前に死ん

だ子供を加算すると、今少し割合が多くなると思ふのであります。が兎に角、生きて生れた者の内で、二割三分、或は二割二分と云ふものは、一年以内になくなつて行くのであります。

北方三縣の乳兒死亡率が、斯う云ふ風に多いのは、どう云ふ譯であるか、單に寒いと云ふ所以だけではないと思ふのであります。寒いと云ふ點から言へば、北海道の方が寒いが、玆は一割七分位の死亡率であつて、青森、秋田、山形に較べると餘程少く、歐羅巴の例に見ても、スエーデン、ノールエーの如き寒いところは、死亡率は九分乃至八分で、とても二割と云ふやうな大きなものは出て居ないのであります。さう云ふ譯で、今擧げた三縣に乳兒死亡率の多いと云ふことは、何か特殊の原因があるだらうと思ふのであります。今色々と察せられることもありますが、確言する程確かでありませぬから、それは控へて置きますが、兎に角、或る原因があつて、乳兒を死亡せしめる率が多いのであると云ふことだけは言ひ得るのであります。

死亡率の最も少ないのは、沖繩で、六分六厘と統計に出て居りますが、餘り少な過ぎるのであります。六分六厘などと云ふところは、世界中どこにもありませぬ。歐米で一番少ないのが那威の女子の六分七厘で、男子の方が八分一厘で、兩方一緒にすると沖繩より少し多くなつて居ります。これは恐らく沖繩のは統計が不完全なのではないかと思ひます。それは暫く措いて、南の方で少ないのは、鹿兒島縣であります。鹿兒島縣は、一割〇分七厘八毛と云ふ非常に少ないところの死亡率を示して居ります。鹿兒島の溫度の柔かであると云ふことが、餘程影響して居るかも知れませぬが、また、嬰兒の死亡に對する素質が、いゝのか、兎に角、氣候の影響が餘程あるものと思ひますが、一割一分に達しない一割〇分七厘八毛であります。これを、海外諸國と比べて見ますと、オーストラリヤが非常に少ないところで、男子九分五厘を示し、そのオーストラリヤに稍々似たやうな少ない

死亡率が鹿兒島縣に現れて居るのであります。日本全國の死亡率は、今擧げた最大と最小の間に、その位置を占めることになつて居ります。

三府の統計を取つて見ると、大阪は前述の通り一番多く二割三分三厘、次が京都の一割八分二厘で、三府の內で嬰兒のために最も都合のよいのは、東京府で一割五分九厘を示して居ります。大阪に比べると非常に少なく、鹿兒島の兒童の生命に對する力を百とすると、東京は九十四、大阪が八十五と云ふ數になつて居ります。明治の晩年、卽ち明治四十二年以降を觀察して見ますと、東京の乳兒死亡率は、段々減少の傾きを示して居るに反し、大阪府は增加して居ります。京都府は、製造工業が盛んでなく、卽ち還境が大阪程惡くないにしては、死亡率が比較的多いのであります。或は、生活が學的衞生法に適つて居ないのではないかと思はれるのであります。

また、男女の間の關係の頽廢して居ると云ふことが、こゝに餘程影響して來るのではないかと思はれる、さう云ふやうなことが、大阪、京都の方に比較的多いのであります。統計に現れてゐるところから見るも、男女の性的觀念の硬軟と云ふものが、嬰兒の死亡に、非常な影響を及ぼして居るらしく考へられるのであります。

日本全國の平均嬰兒死亡率は、一割六分六厘で、これを歐羅巴諸國に比べて見ると、日本で統計を取つた年から起算して、四十三年前のフランスの乳兒死亡率と一致して居るのであります。また、これを四十三年前のイギリスの乳兒死亡率と比べると、英國は、一割四分九厘になつて居ますから、日本はこれよりも、まだ多く、卽ち、嬰兒の死亡率の點から見ると、日本は英佛よりも四十年以上遲れて居る譯で、嬰兒死亡率の大小は、その國の文化の程度を示すことになるのであります。更に、北米合衆國と比べると、合衆國は一割一分六厘で、日本より遙に少く、瑞典、那威以外の歐洲諸國に比べても、北米合衆國の嬰兒の死亡率は、一番少な

く、子供のためには最も良い國であります。これは、文化の影響もあり、土地が廣大で人口が稀薄で、食物が溢れる程あるなどが勿論關係して居ると思ふのであります。

そこで、文化と云ふものが段々進歩すると、乳兒死亡率をどの位まで低下させて行くことが出來るかと云ふことが、問題となつて來るのであります。どの位まで、文化文明の力で、嬰兒の死亡率を減少させて行くことが出來るか、これについては、北米合衆國の學者の考察が餘程綿密に試みられてゐるのでありまして、幼(いと)けない子を十分に注意して保育するを得るやうな都合のいゝ、狹い區域の例證から推して考へると、嬰兒の死亡率は、隨分これを低下させることが出來、低下せしめ得ると云ふ見込が立つのであります。先づ、大きい都會について見ると、一歳未滿の嬰兒は、千人毎に百人まで率を低下させることが出來る見込が立つのであります。合衆國の西の方の都會の如く、健康上、東部に比べて一層都合のいゝところでは、大體大都會でも、乳兒十人について、死亡者一人位にまでこれを減らすことが出來るのであらうと云ふ見込が立つのであります。十人に一人、百人に十人と云ふ割合は同じですが意味は違ひます。十人で一人死ぬのと、百人の内十人死ぬと云ふのでは意味が違ひます。若し貧民の少ない健康的の小都會になつて來ると、或は田園地方などになつて來ると、一歳以下の嬰兒の死亡率は、八分まで低下さすことが出來るでありませう。そして、一割乃至八分まで低下せしめることが出來た曉には、更に、色々な方面の改善を施して、この死亡率をそれよりも、更に低下せしめることを望み得るのであります。斯う云ふのが合衆國における學者の研究上より得た見込であります。合衆國は、御承知の通り、歐羅巴の諸國の子孫が來て作つた國でありますが、歐羅巴の本土の方が、死亡率が餘程多いのであります。同じ民族でありますが、合衆國に來て餘程よくなつて居ります。なほ、それを工夫すれば、現在の一割一分よりも、ずつと低下させて、一割、

或は八分位までの見込が立つと云ふのでありますから、歐羅巴の諸民族の今日生命に對して現して居るところの力と云ふものは、素質から考へらるゝ所よりも弱くなつてゐるのであります。人が工夫すれば、もつと生命の力が現れて來るのに、人の取扱ひが不十分であるために、素質よりする以上の者が死んで居ると云ふことが、歐羅巴諸國では分つたのであります。北米合衆國と、歐洲に於ける同じ民族の乳兒死亡率の割合を較べると、さう云ふ差が、あるのでありますから歐羅巴では、まだ人間の力によつて乳兒の死亡率を、遙に、減少せしめることが出來ると云ふことが、分るのであります。

更に、米國のエール大學に私の知つてゐるアーヴイング・フイッシャーと云ふ經濟現象を數學的に研究してゐる學者がありますが、この人は、死を防ぎ止めることの出來る率と云ふものを計算しようと試みて居るのであります。死を防止する率、どの位現在の乳兒の死と云ふものを阻止することが出來るか……防止し得べき率であります。それを計算しようとして、色々な事實から工夫して居りますが、斯う云ふことを言つて居ります。平均一歳の者の死、卽ち、乳兒の死は、四割七分までは、これを防ぎ止めることが出來る。先づざつと半分は、人間が工夫すれば止めることが出來る――次に、幼兒(五歳以下)の死は、六割七分までは、これを豫防することが出來る、と云つて居ります。卽ち、一歳以下では四割七分五歳以下では六割七分まで防止する見込が立つのであります。假に、このフイッシャーの算出した數を標準として、日本の狀態を考へて見ます。

一年に一歳以內の者は三十二萬七千餘人死にます。その內で、十五萬三千九百餘人を救ふことが、人間の工夫で出來るのであります。それから、男女五歳以下の死亡者の總數は、四十一萬四千人で、その內死の可防止率の六割七分を救ふことが出來るとすると、二十八萬人以上を生かすことが出來るのであります。これを裏から云ふと、親なり、保育者なりが、工夫をしないで、不注意であるために

これ丈け夥しい嬰兒なり幼兒なりを亡くして居るのであります。若し、努力して學的の工夫研究によれば、それを失はないのみならず、父母の悲哀を夫れ丈け無くなす事が出來るのであります。一體日本――少し前の西洋でも同じですが、嬰兒、或は兒童の價値と云ふものを、適當に認識して居ない傾きがありまして、それが幼兒の生存發育に、知らず識らず、妨碍をして居ります。もつと子供の價値を吾々が認めて居つたならば、もつと生して、もつと丈夫に育てゝ行くことが出來るのでありますが、子供の價値と云ふものを適當に認めないために、斯く多くの子供を殺して居るのではないかと思ふのであります。

愛情の方面から子供を惜しみ、子供を可愛がるのは自然の人情でありますが、そればかりでなく、家族の發達の方面から、或は經濟的方面、國家的方面から研究して、兒童の眞の貴さを認識することが、兒童の死亡を防ぎ止めることに、大なる効果を生ずるのであります。

どう云ふ點で兒童を救つて行くことが出來るか、嬰兒を如何にして救つて行くかと云ふ問題で述べたいと思ひますが、細いことは略して、先天的の弱質と、後天的の不健康とについて述べます。

先天性弱質、或は不具、或は黴毒の傳つて居る子供、腦膜炎に罹る者の中に、遺傳的の結核性の者があります。すべて是等の子供は、惡い素質を持つて生れたのであつて、畸形、先天性弱質、黴毒、腦膜炎などの爲めに死亡する一歳以下の嬰兒は嬰兒死亡總數の三割三分になります。これを、救ふことは餘程難しく、この畸形、先天性弱質などと云ふものは、一歳以下の死ぬ者の三分の一を占め、これは素質が惡るく、生來の質がよくないのであります。それは、先づ致し方のないものとするも、尤も親が子を持つ前に、もつと氣をつけてくれたら、さう云ふ惡い素質には生れなかつたでありませう。併し夫れは措いて、下痢、腸炎と云ふやうな消化器に關係する病氣があります。それから、急性氣管支炎とか、肺炎

氣管支炎と云ふやうな病氣で死ぬのがあり、それを合せて三割五分になります。消化器が一割五分二厘、呼吸器の方が一割九分八厘であります。これ等は、大部分救ふことが出來るものなのであります。消化器下痢腸炎と云ふやうなことは、詰り、榮養の不良によつて居るのであります。それから、氣管支炎とか、或は急性の肺炎とか云ふのは、住居の不良なる爲であつて、住居の不備、或は保護者の不注意、寒い所に關はないで子供を背負つて歩くと云ふやうなことが因で、さう云ふ病氣を起して來るのでありまして、食物、榮養に關係しての病氣と、氣管支に關係しての病氣は、親の注意によつて救つて行くことが出來る病氣でありますから、嬰兒死亡者の三割五分は、この方から救つて行けるのであります。それから、ヂフテリヤで斃れると同じ數が、外因の死によつて斃れて行くのであります。これは無論救ふ事が出來ます。

それから、もう一つ、嬰兒の死と云ふことを考へる時に、脱かしてならないことは、公生兒と私生兒の關係であります。大正年間に調査した統計から、調べて見たのでありますが、公生兒――正當なる夫婦の間に生れた子供は、百人生れる中で、死んで生れる者が七分五厘程の割合であります。ところが、私生兒は二割が死産であります。丁度、私生兒の死産は、公生兒の死産の二・六倍になつて居るのであります。これは明治の終り十年間と略々同じであります。大正時代になつても、私生兒の死産が、二割に達して居ると云ふことは注意す可き事であります。私生兒の死因と云ふものが、體質の弱いためであるか、或は胎兒に對し、世間と親とが不親切のためであるか、或は墮胎と云ふやうなことが行はれるためであるか、どうも統計上では斷定する緒(いとぐち)はないのであります。兎に角、私生兒の場合には、死産と云ふものが非常に多いと云ふことは、明らかに統計に現はれて居るのであります。恐らく前述したやうな原因は、悉く入つて居るだらうと考へられるのであります。例へば體質も弱いのでありませうし、世間や、親が胎兒に對

して不親切である……或は墮胎をさせる……或は生れる時に非道に扱はれる爲め死すると云ふことも多少あるだらうと思はれるのであります。さう云ふ色々の原因があつて、死亡率と云ふものを高くして來るのであります。兎に角、私生兒は、暗より暗に葬られる度が、公生兒の場合に比べると、二倍半以上に多いのであります。公生兒は十年間に約一割死產が減つて來て居るに反して、私生兒の方は、その傾きが少しも認められないのであります。斯う云ふ譯で、私生兒は生れる前から不運であつて、生れてから後にも、發育することが困難で、生長しても家族關係、社會關係が薄く、且、母は私生兒のために面倒を見て、これを愛撫すること十分でなく、父は更に關はないので、隨つて、概して見れば其行末の望が公生兒程輝くことは困難であります。故に、社會の發達、家庭、或は個人の向上生活の上から考へて見ると、私生兒を減少せしむる工夫をすることが、極めて重要になつて來るのであります。

これは、畢竟男女の關係を合理化し、道德化する外に途はないのであります。法律上、公私生兒の區別をやめてしまふと云ふことも、一つの緩和法でありますが、皮相的緩和法であつて、徹底して居りませぬ。ところで、この私生兒は何處が一番多いか、全國の平均では、私生兒は公生兒の九分弱に當つて居りますが、生產百中、私生の數は府縣により相違してゐます。一番少ないのが、靜岡で三分四厘、百人中三人四分の私生兒で、最も多いのは、大阪の一割四分六厘、生產百人中十四人六分が私生兒であります。明治の末は、もう少し多く一割九分であつたのでありますが、少し減つて居ります。これが、私生兒の少いと、多いとの極端であつてその間に各府縣は挾まれるのであります。三府で言ふと、最も多いのが、大阪、次が京都、それから東京であります。概して見ると、私生兒の割合は、その國々の男女の風儀を現して居るのであります。私生兒の多いところは、男女の風儀が亂れて居るのでありますが、統計上、近畿卽ち京阪地方、中國、四國は

私生兒の割合が多い、以上は、統計面に現れて居るところを私が概括して述べたのであります。本州卽ち中區、北區は私生兒の割合が少ないのであります。大體さう云ふ風になつて居つて、若しこれが男女の風儀を現すものだと見れば、大阪が風儀の不良の方のチャンピオンであります。大阪は商業道德は大に發達して居ると云ふ事ですが男女道德、性的關係においては大阪や京都は東京より遙に劣つて居るのであります。

精神的素質について少し述べますと、當今の文明諸國の內で歐羅巴を見ますと、精神的素質で、割合よく分るのは、智能の素質であります。歐羅巴諸國中、何國が一番優つて居るかと云ふと、これは隨分長い間、色々な方面から研究された結果、略々學問上で認められて居る優劣の段階があるのであります。最も優れて居るのは歐羅巴の北方民族であります。それから、最も劣つて居るのは、地中海民族で、イタリー、ポルトガル、スペインなどであります。それから、北方民族と地中海民族の中間が、アルプ民族で、フランス、ロシアの西の方、ずつと東歐羅巴に向つたところであります。ドイツ人は、アルプ民族六割北方民族四割の混合であります。一般に認められた段階は北方民族が一番優れ、次がアルプ民族、それから地中海沿岸の民族と云ふやうな順になつて居ります。地中海民族より劣つて居るのは、アフリカの黑人であります。これは、色々複雜なところから、段階がつけられて居るのでありますが、最近智能素質を檢査する方法が、心理學によつて工夫されました。その智能檢査法によつて、檢定して見ることが出來るのであります。それは、未だ完全に出來上つたとは云はれませぬが、先づ信賴することが出來る程度まで進んで來て居るのであります。それによつて各民族の兒童を計つて見たのであります。

斯う云ふことに、一番都合のいゝのは、米國でありまして、米國には、歐羅巴の各民族が集つて居りますから、その兒童達に智能測定を施して見るのであります

す。一例は、カルフォルニヤにおいて、ダルシイーと云ふ人が、計つたその結果でありますが、これを測定するについて、日本からも、少し補助をして居るのであります。これは、移民に關係した問題でありまして、向ふの學者が、精密に計つた結果によりますと、現した數字は智能率、智能商と申しますか、インテリヂェンス、クオシエントでありまして、これは數が多い程智能が優れて居るのであります。

南イタリー人　七七、五（地中海民族）
スロバキア人　八五、六（アルプ民族）

米國に行つて、小さい町に住んでゐる日本人で、ヤツと生活して居る日本人、それは素質が餘り良くないのでありまして、

日本人　八七、六
フインランド人（北方民族の混血種族）九〇、〇

北米人は、アングロサクソン系の民族で

北米人　九七、〇

米國の大都會に住んでゐる日本人が

日本人　九九、二

次が北歐人、本國の歐羅巴人の子供でありまして、

北歐人　一〇〇、〇

斯う云ふ順序になつて居ります。日本人は素質のいゝ者になりますと、フインランド邊りと拮抗し、北歐人より稍々劣つて居ります。北方人によく似て居りますし、併しこの檢査は英語を用ひたので他國民は其點で不便があります、日本人は殊にさうであります。

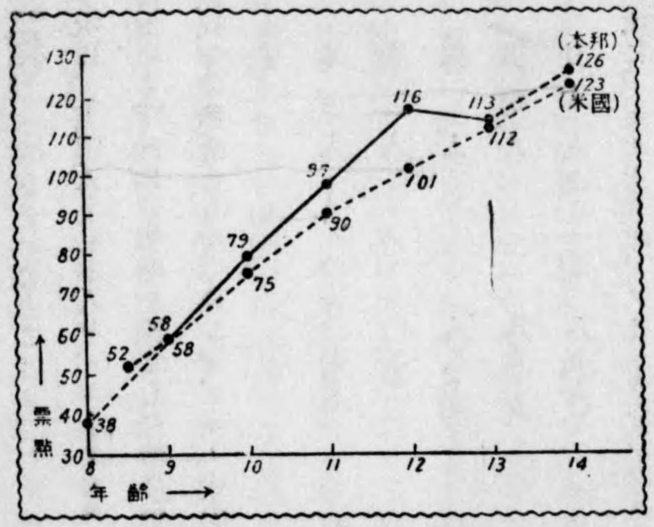
そこで、言語上の不便があつて、公平でないと云ふので、もう一つのベーター檢査と云ふのをやつたのであります。これは、作業檢査であつて、眼で見て手で

仕事をして、その結果で智能を計つて行く檢査法でありますが、その結果は、日本の子供が一番成績が宜いのであります。

日本	七九、六
アングロサクソン	六八・三
イタリー	五四・〇
スペイン	五二・七
ポルトガル	五二・五

斯樣に言語を除いて計つた結果は、日本は、成績がいゝのであります。

これで、日本の兒童の素質は、どの位の地位にあるものだと云ふことが、略見當がつくのであります。いろ〳〵、學者が骨を折つて複雜なことからきめた結果と、この智能の檢査に現れて來るところが一致して居ます。なほ、米國に行つてゐる日本人と北歐の兒童を比べたのでは、はつきりしませぬから、東京の山の手の學校に行つてゐる兒童と、米國の大都會にゐる兒童約一萬人位宛を、同じ國民智能檢査と云ふ方法で、檢査を行つた結果、（東京市の山の手の檢査は、東京市の仕事として先年行つたのであります）立派な結果が出て居ります。八歲から十五歲までの者を檢査したものでありますが、その結果を圖に現しますと、上の如くになります。



（日本兒童と米國兒童の智能比較圖）

東京の方が、少しいゝ結果を現して居ります。一體に、山の手に住んでゐる人の方が、素質がよい、勿論外國の都市にも、山の手と下町はあるのであります。（上の圖に於て、米國の都會のは山の手と下町

とが含れまてゐます。）

次に、支那人と日本人を、ポーテウスといふ人が比較した表があります。布哇における諸民族の智能を測定した結果が、次に示す表に現れてゐますが、これは國民智能檢査とも少し違ひ、ビネー式の檢査とも違ひます。兩方交ぜた結果であります。

米人	一〇七・〇
英人	一〇〇・〇
獨人	八八・九
支那人	八六・九
日本人	八五・〇

次に、ポルトガル、フイリツピン、スペイン、ポルト・リコー人が位します。日本と支那とは相匹敵するものであります。

ポーテウスは、社會的順應性について、或は仕事をやり上げる遂行性について、日本人と支那人を、比較的に研究して居りますが、その結果はポーテウスは日本人の方が優れて居ると言つて居ります。この一般的智能檢査と仕事の遂行性社會的順應性から比べて見ると、ハワイに住んでゐる北米、北歐人以外では、日本人が一番いゝと云つてゐるのであります。日本人の布哇に於ける活動に就ては油斷をしてはいけないと云ふやうな意をほのめかしてゐます。又チャールス・ピアソンと云ふ人は、支那人の將來の有望なるを說いてゐます。支那人に、自由勞働を許すなら、濠洲の白人などは其敵にあらずと云ひ、遠い將來には、地球の赤道及其附近は、黃色人の一帶に捲かれるかも知れぬと云つてゐます。そこで、智能素質の檢査から見ると第一が北方民族、次が日本支那、それからアルプ民族、地中海民族と云ふ順序になつてゐます。

最近の智能測定の結果によると、日本兒童の智能素質の概して優良であると云

ふことは、諸方面の研究によつて明にせられて居るのであります。

以上の測定は、比較的簡單なる智的機能に就き、又兒童に就き爲されたのであります。今眼を轉じて見ると日本人が、世界列國の中に位して以來、外交、商業、交通、學問、藝術の方面において、業績を色々擧げてゐますが、その業績を見ると、日本人の智能素質が優良で、世界の諸民族の內でも、餘程優良な位置にあると云ふことは肯かれるのでありまして、歐米の先進國が、日本を其仲間に入れるのを耻ぢざるに至つたのは、詰り、以上諸方面の實際の成績を認めたからであります。夫れを客觀的測定が、科學的觀察上から裏書きをして確かめたのであります。

日本民族の素質が優良であるとすれば、この兒童に適當なる敎育を與ふれば、將來に發展することは疑はれないことであります。そこで、今一つ考へねばならないのは、日本民族の被敎育性、卽ちエジュケビリティーの素質が備つて居るかどうかと云ふ事であります。これは、細いことを申しあげなければ分りませぬが、敎育の効果の現るゝのに色々の型があつて、巧く進んで行く人と進んで行かない人とあります。被敎育性において、日本の子供なり、日本の民族なりは優れて居るかどうか、これは、各の智的機能について、精密な檢査をし、或は仕事をさせて見れば分るのでありますが、今は夫れは略し大體の觀察に止めます。

歷史的に證明されて居ることを見ますと、支那は古來大いなる文化を發達せしめた國であります。世界的に見ても、優秀なる文化を發達せしめた國であります。然るに、支那に接觸した諸民族の中で日本の如く支那の文化、殊に精神文化の色々な方面を學んで、これを咀嚼した民族は外にないのであります。今日では、支那の民族自身よりも、日本の方が支那文化の精神をよく諒解して、その精神を實現して居る位であります。

それから、近いところでは、近來の西歐の文化を西歐以外の民族の中で、日本

民族程それを學び、それを體現して居るものはないのであります。西歐羅巴のあの文明を我々日本人が哲學なり、文學なり、藝術なり、科學なり、宗教なり、政治法律なりの方面において、最も廣く深く學んだのであります。日本民族の如く、優秀なる西歐の文化の諸方面を學び得た民族は外になく、さうして、西歐の文化によつて、日本民族は、今まで教育されてゐるが、この點は諸民族中の第一と言つて宜しいのであります。さう云ふ風に古くは支那文化、新くは西歐文化を深く學び得た事蹟に徴して見ますと云ふと、將來において、日本民族の學び得ざるものはないと云つて宜しいのであります。どんなに高い文明が出て來ても、日本民族は之を學び得るのであります。即ちエヂュケビリティーにおいて、日本民族は優れた素質をもつて居ると云ふことは、確かであります。日本の兒童の精神的素質が、餘程優良である以上は、その素質を十分に發揮せしめるために、適當な教育と、適當な還境を與へると云ふことが最も必要であります。又教育發展の基礎的條件として、嬰兒幼兒の生命の發展を擁護して、この生命の發展を邪魔するやうな原因を、除き去ることに努力しなければならないのであります。

世界大戰以後歐羅巴や、米國の諸國において先づ考へたのは、次の時代を如何にすべきかと云ふことであります。

そこで獨逸は、大戰後の冒頭に、子供を學的に擁護する事に着手し、米國は、世界第一と子供第一とを標榜し、英國は優良の子供を得んと焦慮し、佛國は子を生む母を激勵し、世界の先進國は、何れも其將來の開運を子供の學的研究と學的教育に委するの最安全なるを確信してゐます。我々日本人も、そこに覺醒して、この優秀なる素質を持つて居る日本の兒童、日本の民族を適當に擁護し、之れが生長發展の爲め思慮し、努力する事をしなければならぬと思ふのであります。

昭和三年十一月十四日印刷
昭和三年十一月十八日發行

定價五拾錢

編輯兼發行人　上村清敏
東京市本郷區上富士前町百九番地

印刷人　植田庄助
東京市芝區愛宕町二丁目十四番地

印刷所　常磐印刷株式會社
東京市芝區愛宕町二丁目十四番地

當面の兒童問題

不許複製

發行所　東京市本郷區駒込上富士前町百九番地
合資會社　先進社
電話小石川二四四番　振替東京六五三八番

252
162

終